

観光を取り巻く状況

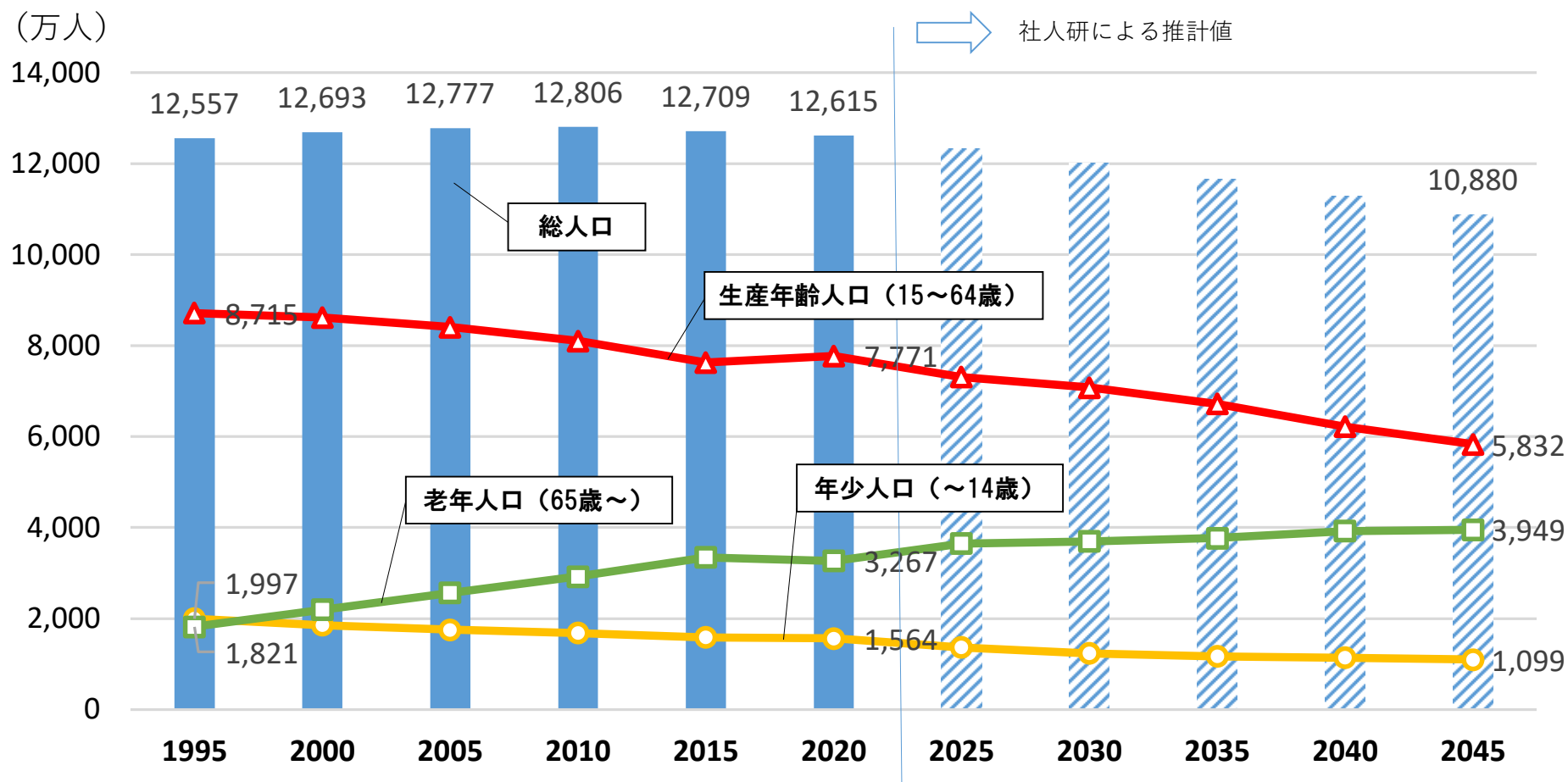
I. 全国の状況

I. 全国の状況

(1-1) 人口減少社会の本格化

- ◇少子高齢化の進行により、日本の総人口は2010年をピークに減少に転じている。
- ◇将来的にも人口減少は続き、2045年には1億880万人と、ピーク時の84%にまで減少する推計となっている。

【日本の人口の推移と見通し】

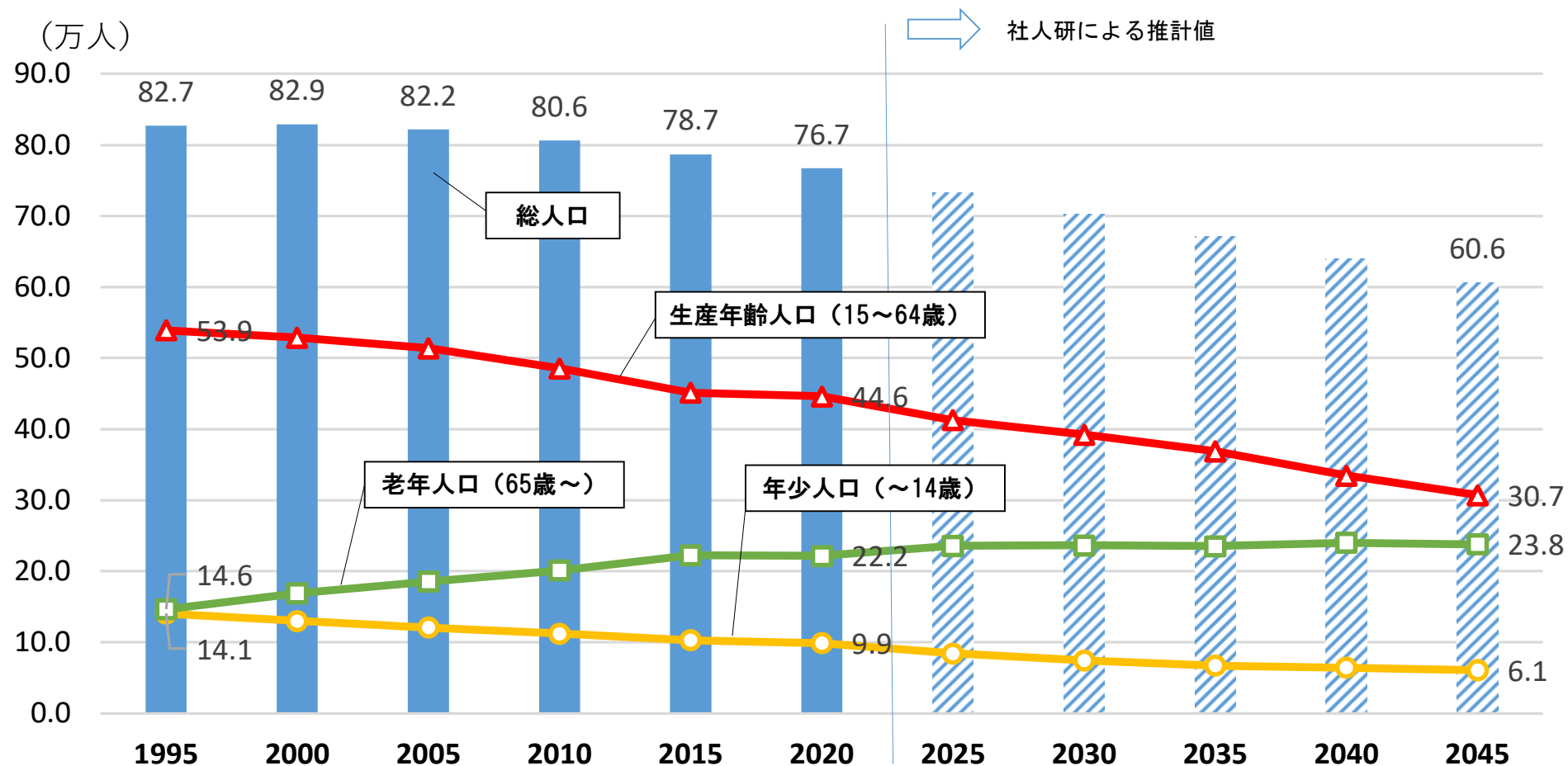


I. 全国の状況

【参考】：本県人口の推移と見通し

◇本県においても同様に人口減少、高齢化が進んでおり、2000年の82.9万人をピークとして、2045年にはピーク時の73%に減少する推計となっている。

【本県人口の推移と見通し】



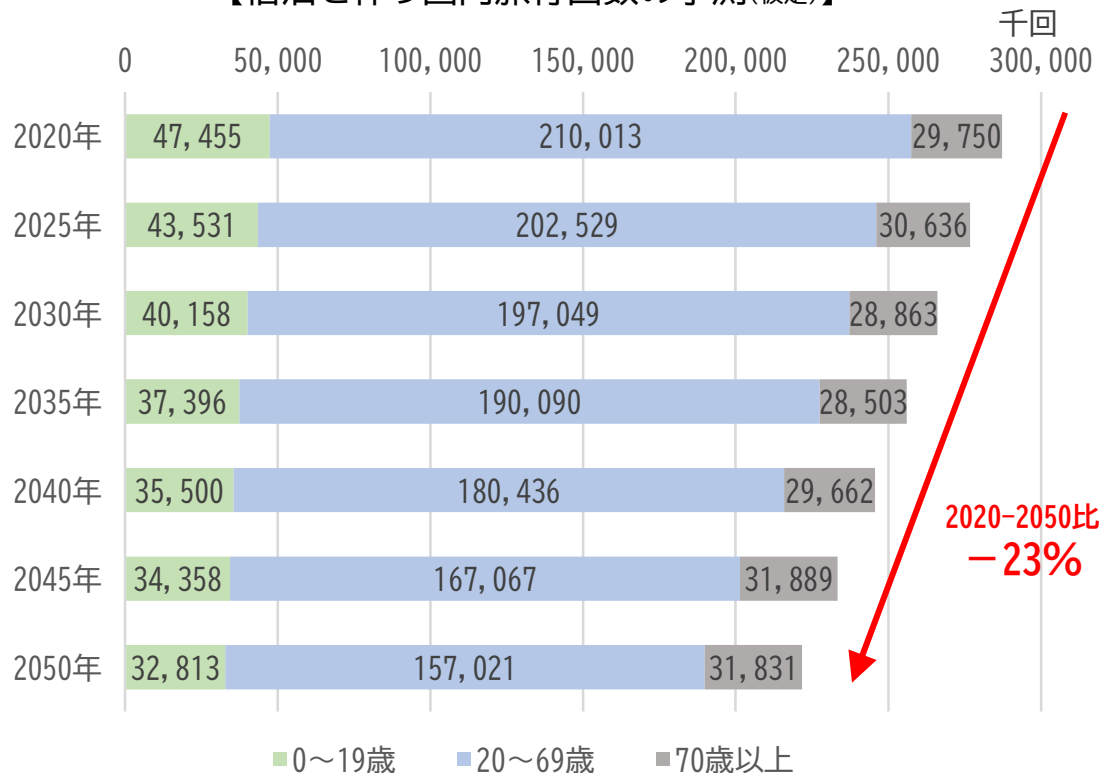
<総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」>

I. 全国の状況

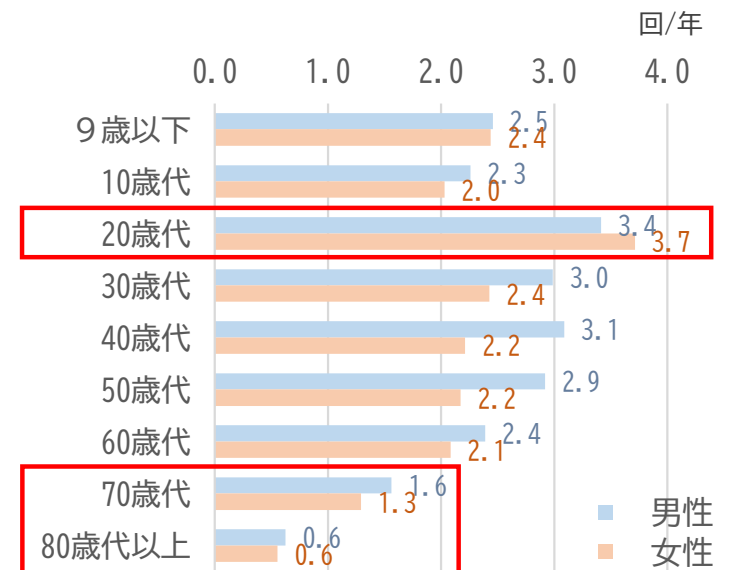
(1-2) 国内旅行回数の減少

- ◇宿泊を伴う国内旅行の年間回数は、男女ともに20歳代がピークで、70歳代以上では2.0回/年を下回る。
- ◇高齢社会の更なる進展により、年間旅行回数が少ない年代が増加し、宿泊を伴う国内旅行回数が大きく減少する可能性がある。

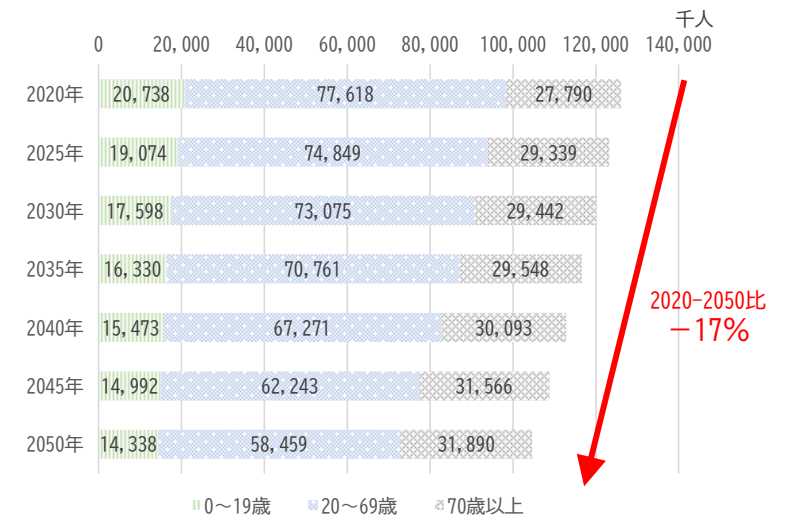
【宿泊を伴う国内旅行回数の予測(仮定)】



【宿泊を伴う国内旅行の平均回数(2023年度)】



【参考:日本の将来推計人口】



※各年の年代別推計人口に、宿泊を伴う国内旅行の平均回数を年代別に乘じて算出

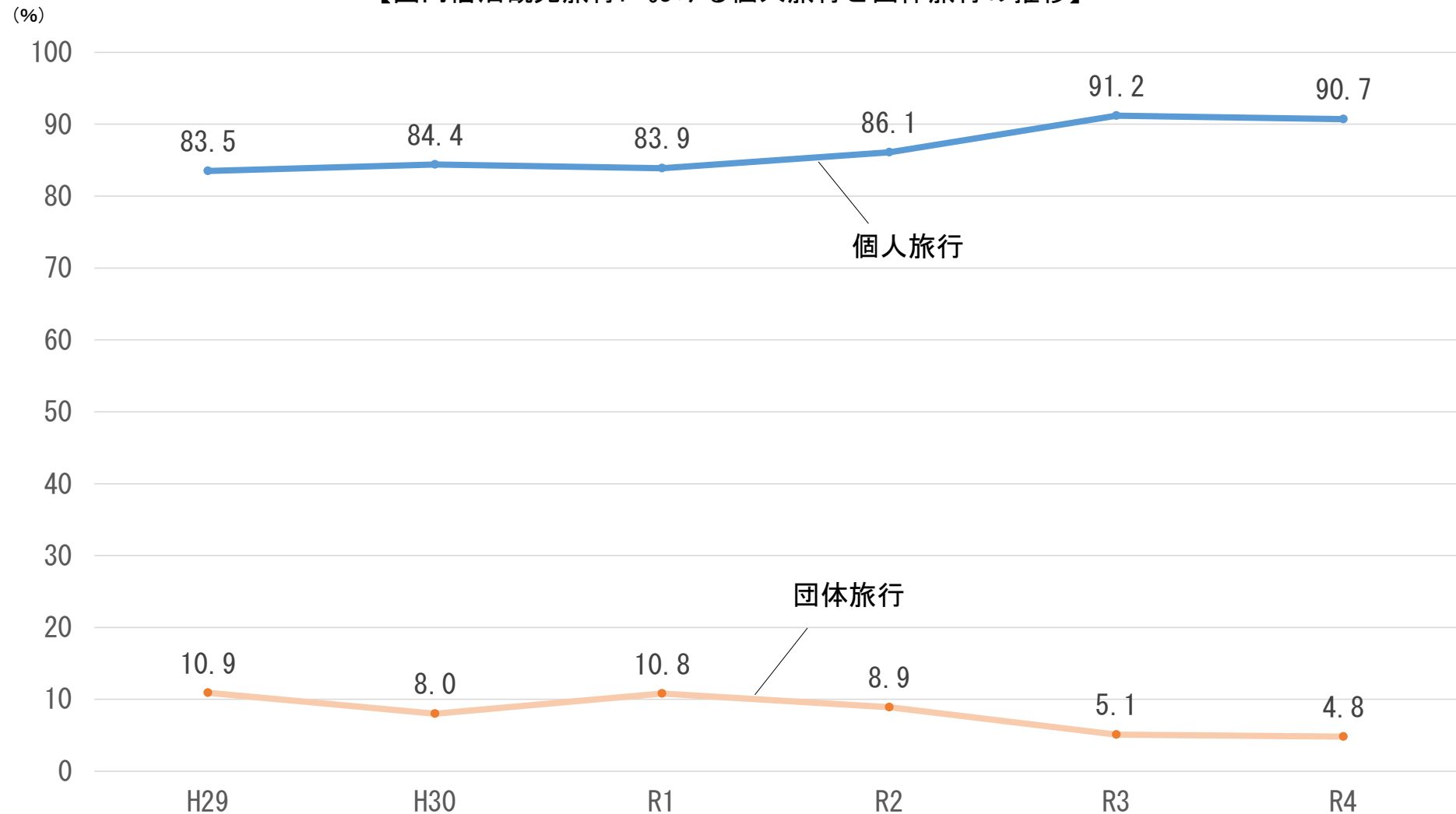
＜観光庁「旅行・観光消費動向調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」を用いて算出＞ 4

I. 全国の状況

(2-1) 旅行形態の主流（個人旅行）

・価値観やライフスタイルの多様化を背景として、国内宿泊旅行においては個人旅行が9割以上を占めている。

【国内宿泊観光旅行における個人旅行と団体旅行の推移】



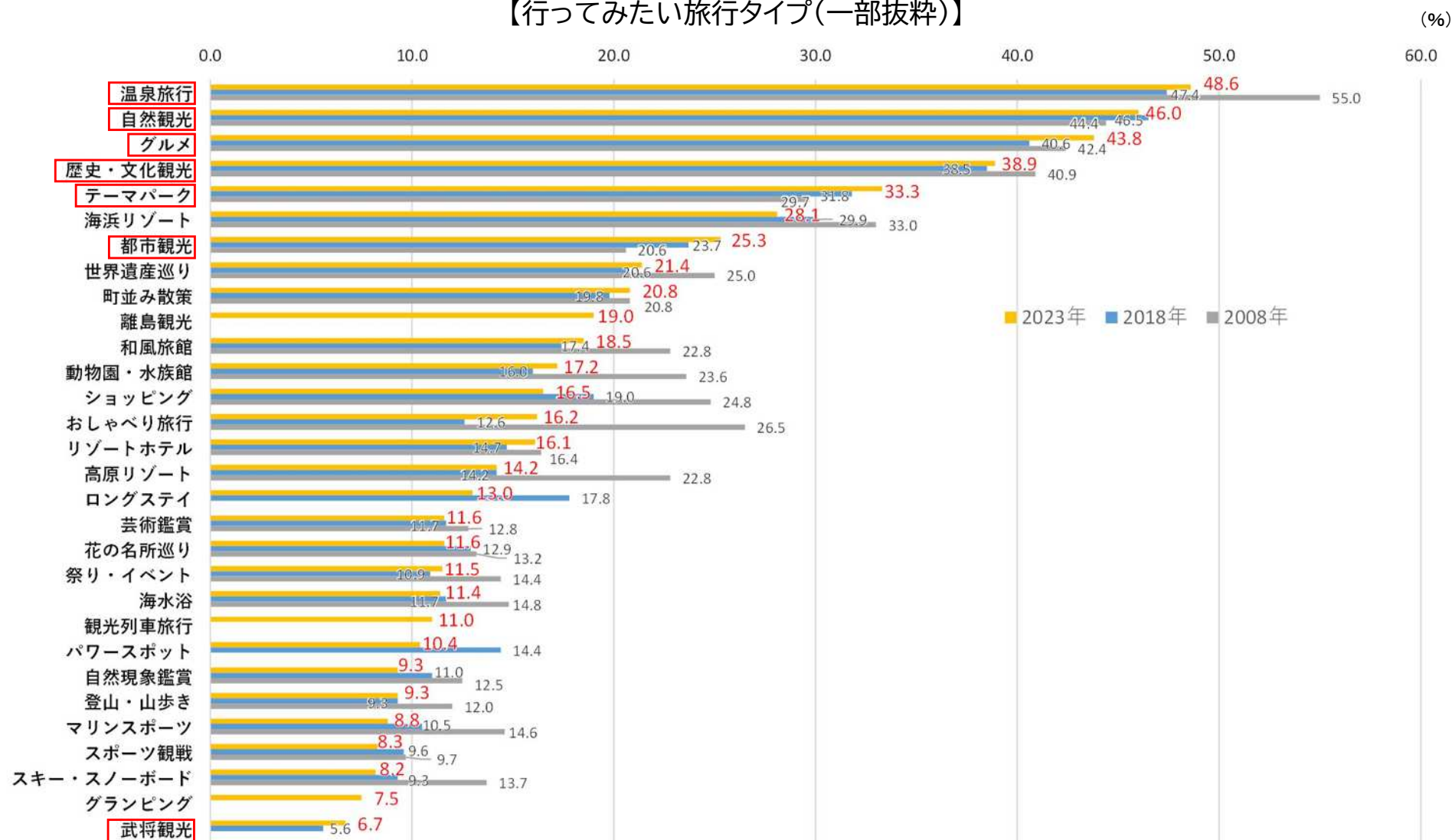
<日本交通公社「JTBF旅行実態調査」>

I. 全国の状況

(2-2) 旅行形態の多様化

◇行ってみたい旅行タイプとして、「温泉旅行」「自然観光」「グルメ」「歴史・文化観光」などの割合が高くなっている。
 ◇割合がこれまでで最高となっているのは「グルメ」「テーマパーク」「都市観光」「武将観光」であり、趣向の変化が見られる。

【行ってみたい旅行タイプ(一部抜粋)】

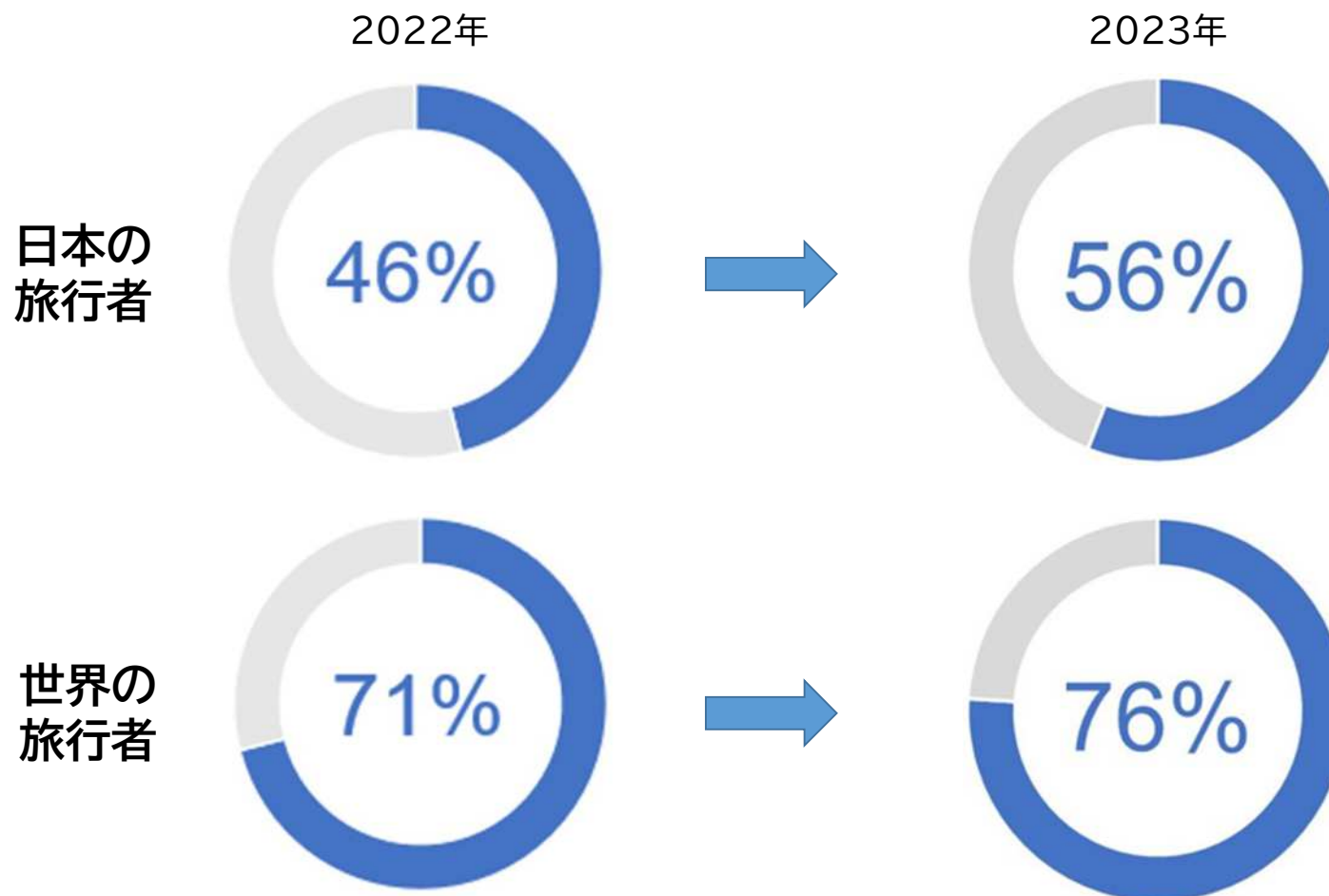


I. 全国の状況

(2-3) 旅行形態の多様化

- ◇日本の旅行者、世界の旅行者ともに、サステナブルな(持続可能な)旅行への関心が高まっている傾向にある。
(例えば、環境負荷の少ないサイクルツーリズムなど自然共生型のアウトドアアクティビティ、地域での伝統文化体験、祭りや行事等への参加、地域の人々の暮らし体験等)。
- ◇また、同調査では、日本の旅行者の39%が「サステナブルな宿泊施設を特に探していなくても、サステナブルな宿があればそちらを選ぶ可能性が比較的高い」と回答している。

【「今後1年間において、よりサステナブルに旅行したい」と回答した日本と世界の旅行者の割合】

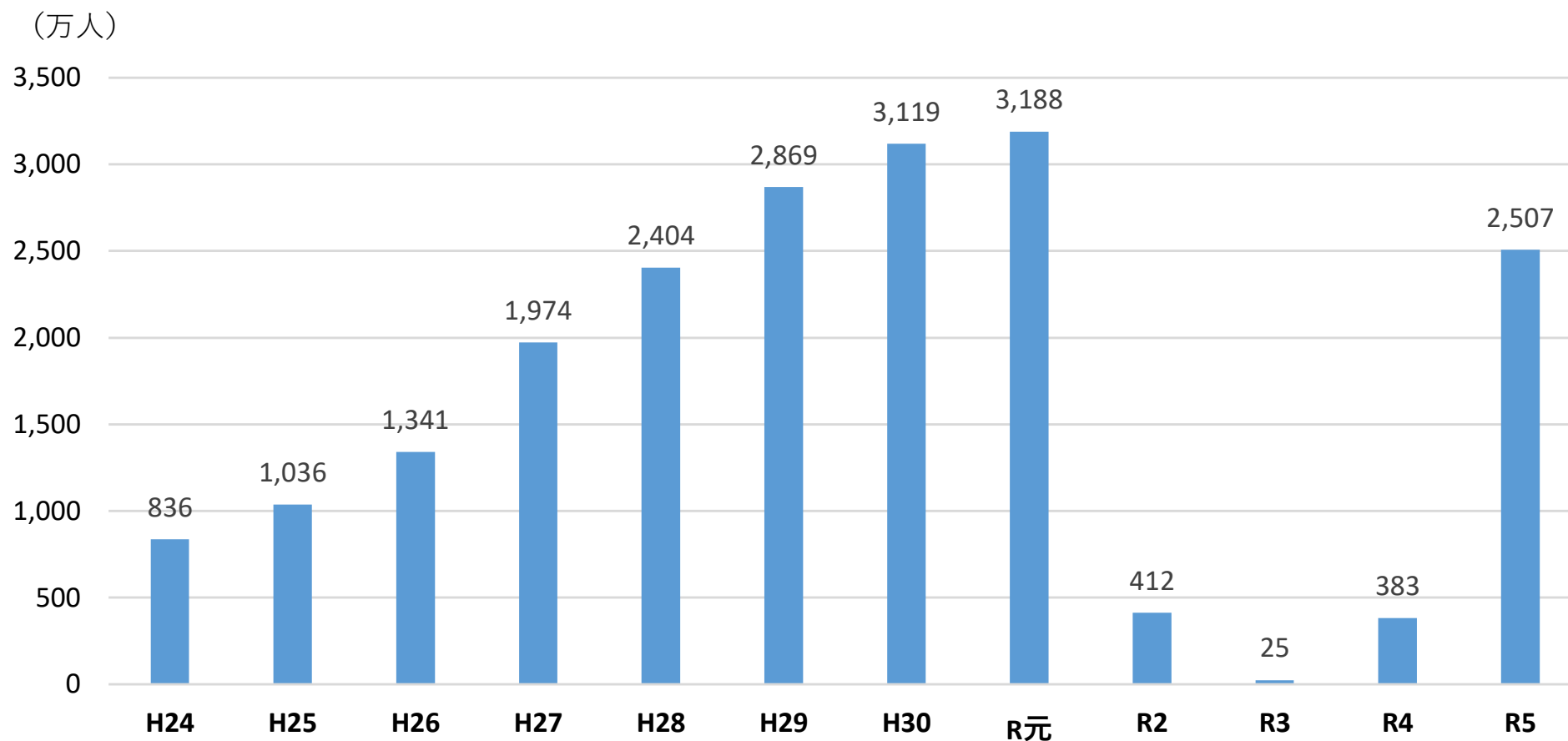


I. 全国の状況

(3-1) 訪日外国人旅行者の増加

◇訪日外国人旅行者数は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、令和2年～令和4年に大きく減少したものの、令和5年は2,507万人まで回復している。

【訪日外国人旅行者数の推移】



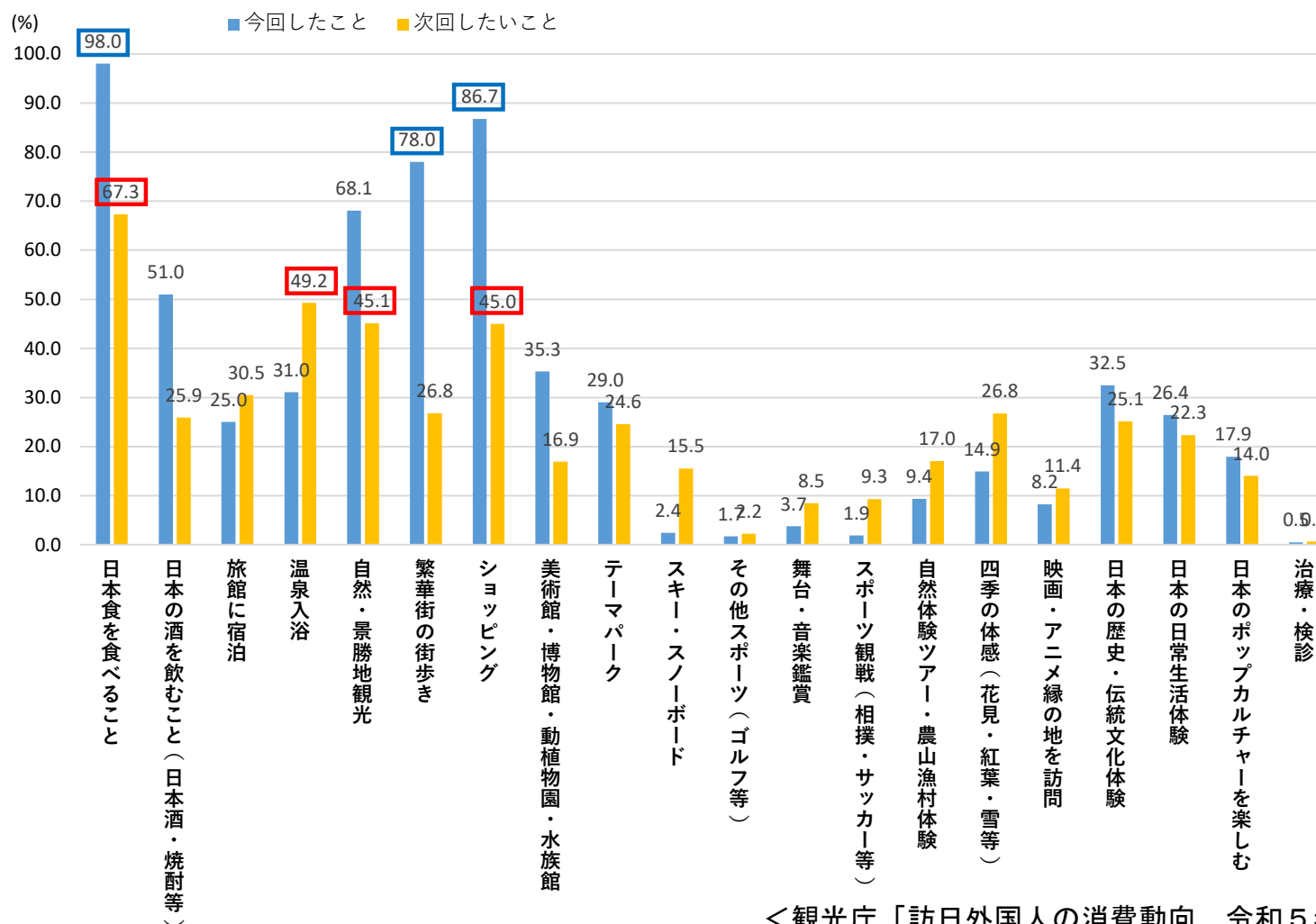
<日本政府観光局 (JNTO) 「訪日外客数」>

I. 全国の状況

(3-2) 訪日外国人旅行者の来訪目的

◇訪日外国人の来訪目的は「日本食」「ショッピング」「繁華街の街歩き」などの割合が高く、再来訪の目的としては「日本食」に次いで、「温泉入浴」「自然・景勝地観光」「ショッピング」の割合が高くなっている。

【外国人観光客の来訪目的(今回したことと次回したいこと)】



<観光庁「訪日外国人の消費動向 令和5年年次報告書」>

I. 全国の状況

(3-3) 訪日外国人旅行者の来訪目的

◇訪日外国人観光客が「次回したいこと」について国別にみると、欧米諸国では「日本の歴史・伝統文化体験」が全体より順位が高く、台湾・中国では「ショッピング」の順位が高い。

【国別訪日外国人観光客の来訪目的(次回したいこと)】

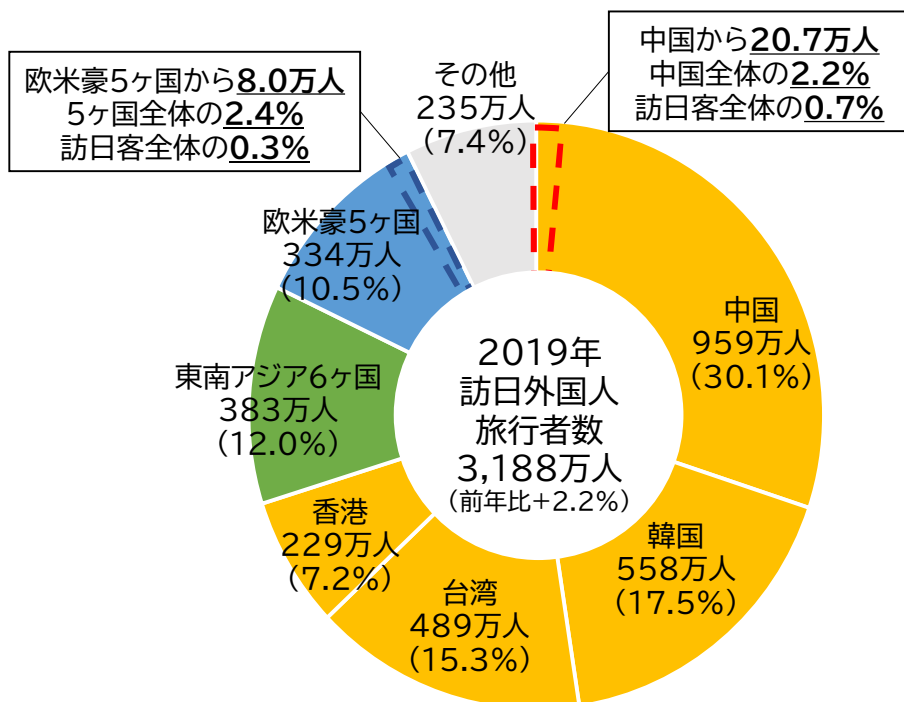
	全体	台湾	中国	米国	英国	フランス
1位	日本食を食べること	日本食を食べること	日本食を食べること	日本食を食べること	日本食を食べること	日本食を食べること
2位	温泉入浴	ショッピング	温泉入浴	自然,景勝地観光	自然,景勝地観光	自然,景勝地観光
3位	自然,景勝地観光	自然,景勝地観光	自然,景勝地観光	日本の歴史,伝統文化体験	日本の歴史,伝統文化体験	温泉入浴
4位	ショッピング	温泉入浴	ショッピング	温泉入浴	温泉入浴	四季の体感
5位	旅館に宿泊	繁華街の街歩き	繁華街の街歩き	四季の体感	四季の体感	日本の歴史,伝統文化体験
6位	繁華街の街歩き	旅館に宿泊	旅館に宿泊	旅館に宿泊	旅館に宿泊	日本の日常生活体験
7位	四季の体感	四季の体感	四季の体感	ショッピング	日本の日常生活体験	旅館に宿泊
8位	日本の酒を飲むこと	テーマパーク	スキー,スノーボード	日本の日常生活体験	日本の酒を飲むこと	ショッピング
9位	日本の歴史,伝統文化体験	日本の日常生活体験	テーマパーク	日本の酒を飲むこと	自然体験ツアー,農山漁村体験	自然体験ツアー,農山漁村体験
10位	テーマパーク	日本の歴史,伝統文化体験	美術館,博物館,動植物園,水族館	美術館,博物館,動植物園,水族館	美術館,博物館,動植物園,水族館	日本の酒を飲むこと
11位	日本の日常生活体験	スキー,スノーボード	日本の歴史,伝統文化体験	自然体験ツアー,農山漁村体験	スポーツ観戦(相撲,サッカー等)	繁華街の街歩き
12位	自然体験ツアー,農山漁村体験	日本の酒を飲むこと	日本の酒を飲むこと	繁華街の街歩き	繁華街の街歩き	美術館,博物館,動植物園,水族館
13位	美術館,博物館,動植物園,水族館	自然体験ツアー,農山漁村体験	日本の日常生活体験	スポーツ観戦(相撲,サッカー等)	ショッピング	スポーツ観戦(相撲,サッカー等)
14位	スキー,スノーボード	美術館,博物館,動植物園,水族館	自然体験ツアー,農山漁村体験	テーマパーク	舞台,音楽鑑賞	日本のポップカルチャーを楽しむ
15位	日本のポップカルチャーを楽しむ	日本のポップカルチャーを楽しむ	映画,アニメゆかりの地を訪問	日本のポップカルチャーを楽しむ	テーマパーク	テーマパーク
16位	映画,アニメゆかりの地を訪問	映画,アニメゆかりの地を訪問	日本のポップカルチャーを楽しむ	舞台,音楽鑑賞	日本のポップカルチャーを楽しむ	映画,アニメゆかりの地を訪問
17位	スポーツ観戦(相撲,サッカー等)	スポーツ観戦(相撲,サッカー等)	舞台,音楽鑑賞	映画,アニメゆかりの地を訪問	映画,アニメゆかりの地を訪問	舞台,音楽鑑賞
18位	舞台,音楽鑑賞	舞台,音楽鑑賞	スポーツ観戦(相撲,サッカー等)	スキー,スノーボード	スキー,スノーボード	スキー,スノーボード
19位	その他スポーツ(ゴルフ等)	その他スポーツ(ゴルフ等)	治療,検診	その他スポーツ(ゴルフ等)	その他スポーツ(ゴルフ等)	その他スポーツ(ゴルフ等)
20位	治療,検診	治療,検診	その他スポーツ(ゴルフ等)	治療,検診	治療,検診	治療,検診

I. 全国の状況

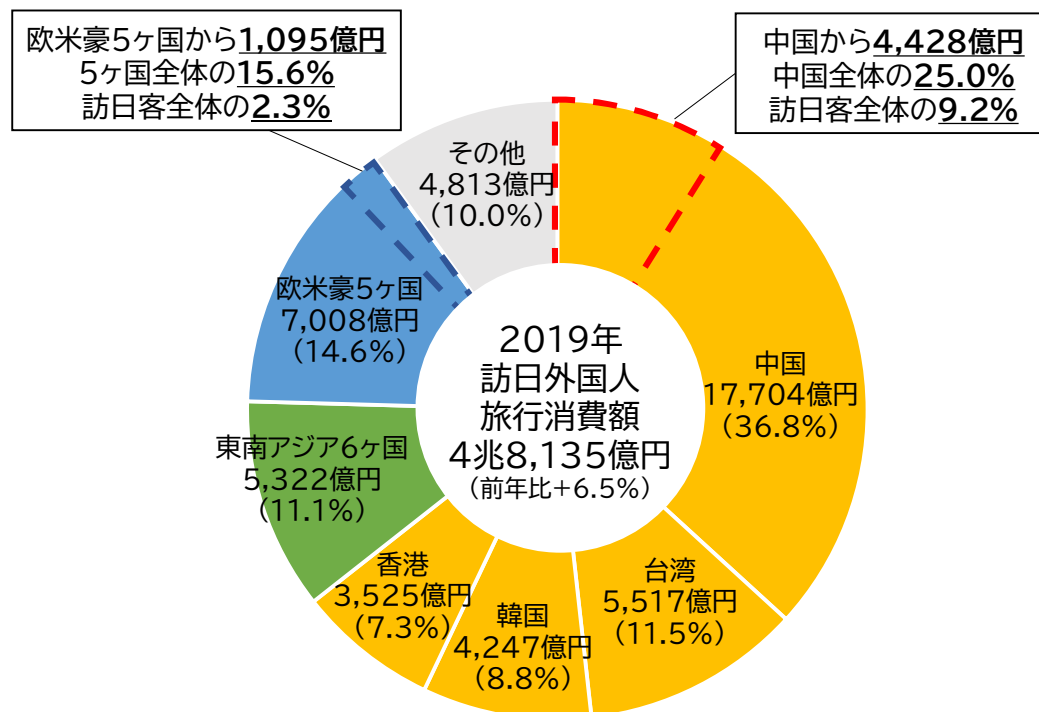
(3-4) 訪日外国人旅行者による消費額

◇高付加価値旅行者(訪日旅行1回当たりの総消費額100万円以上/人の旅行者)は、欧米豪5ヶ国と中国だけでも、訪日客全体の1.0%の旅行者で消費額全体の11.5%を占める。

【訪日した高付加価値旅行者数】



【高付加価値旅行者の消費額】



※欧米豪5ヶ国:アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、オーストラリア

東南アジア6か国:タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシア

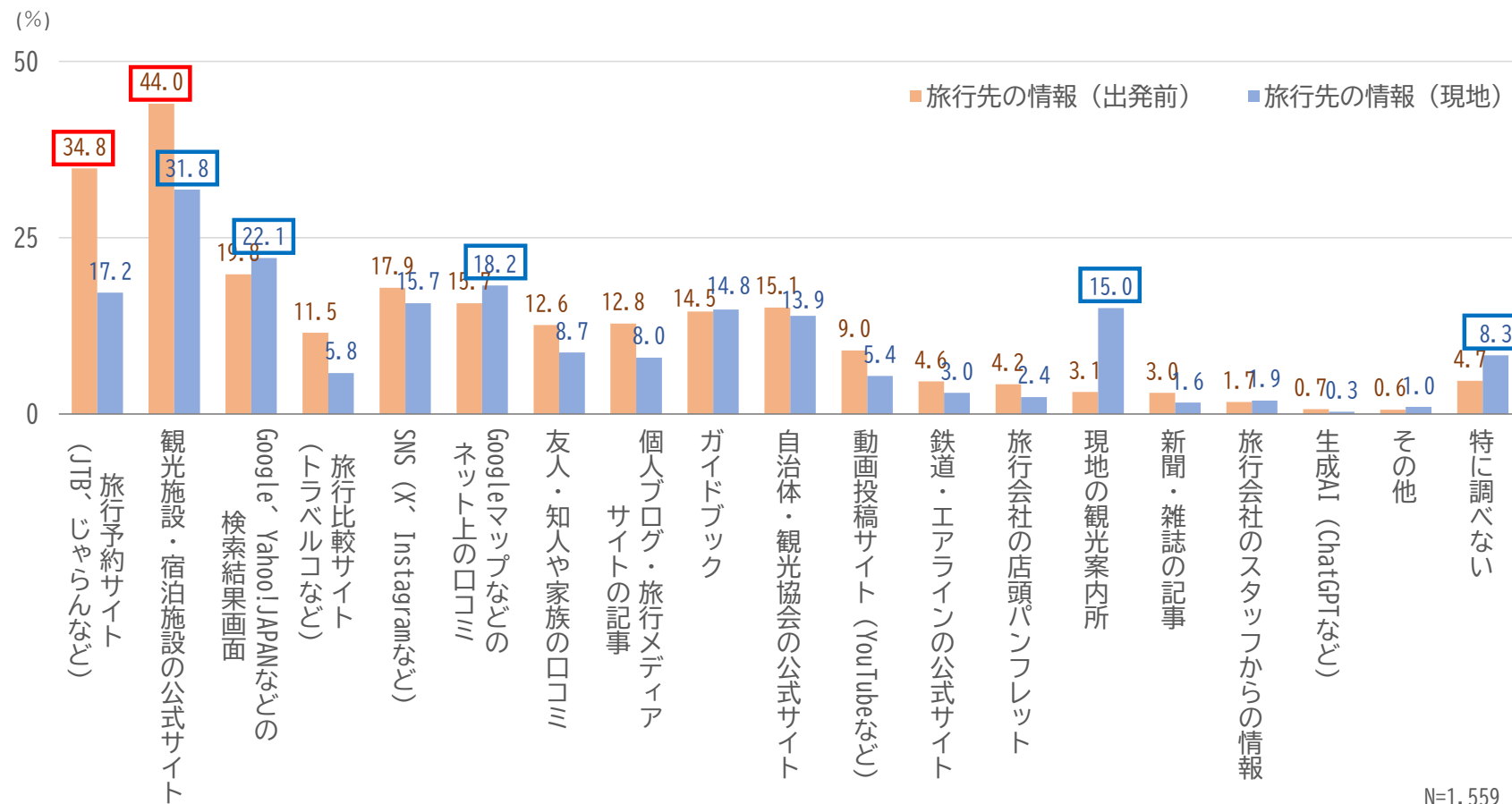
＜観光庁「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けたアクションプラン参考資料」＞

I. 全国の状況

(4-1) 国内旅行者の旅行情報の入手方法

- ◇旅行前では、「観光施設・宿泊施設の公式サイト」「旅行予約サイト」が特に多く、その他にも様々な手段で情報を入手している。
 ◇旅行中では、「観光施設・宿泊施設の公式サイト」が特に多く、「Googleなどの検索結果画面」「Googleマップなどのネット上の口コミ」が上位で、「現地の観光案内所」も多い。また、旅行前に比べて「特に調べない」の割合も高い。

【国内旅行における旅行前・旅行中の情報入手手段】



N=1,559

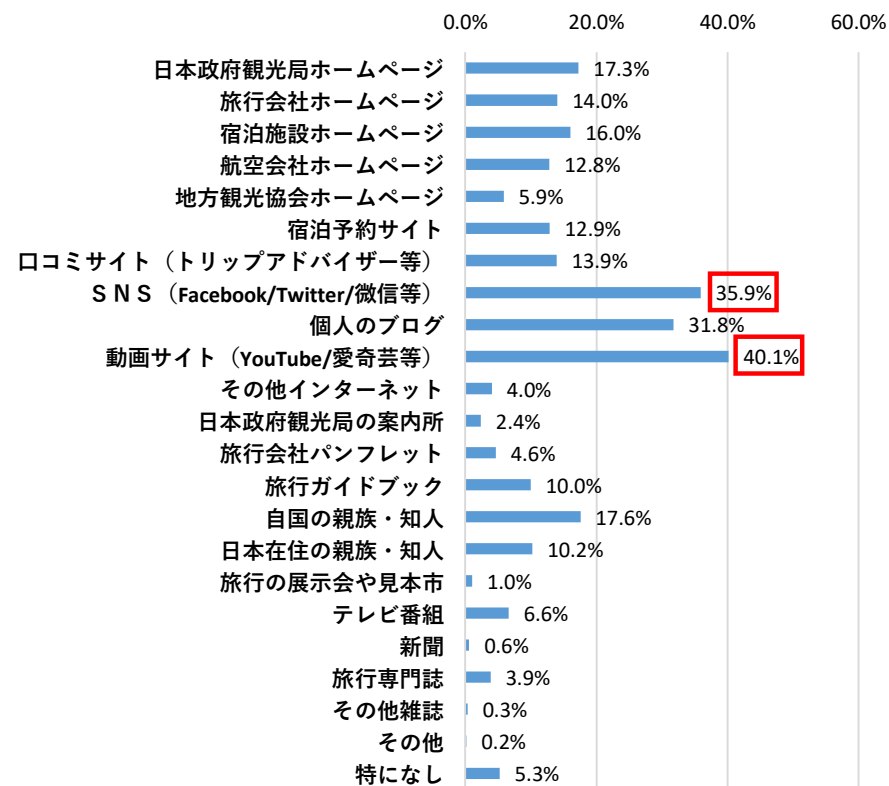
<CCCMKホールディングス(株)「2024年国内旅行の意識調査」より作成>

I. 全国の状況

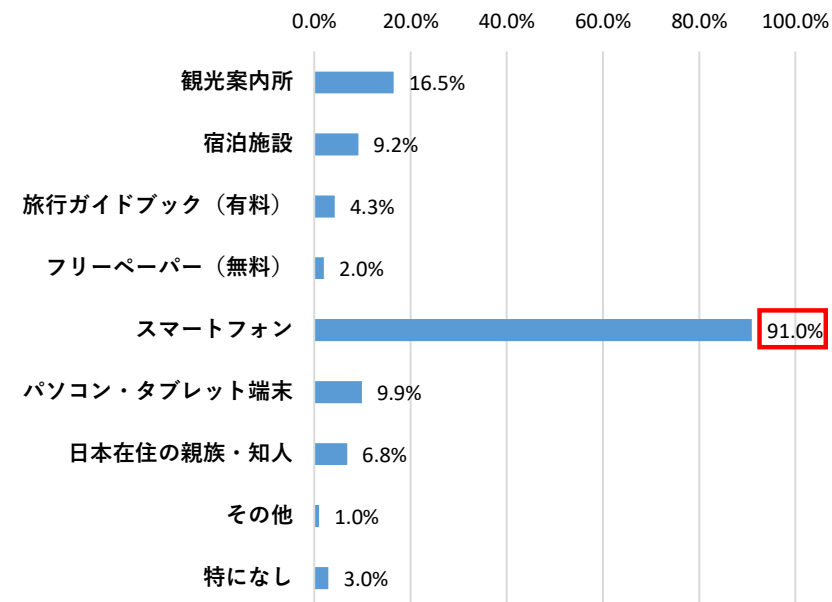
(4-2) 訪日外国人の旅行情報の入手方法

◇訪日外国人の情報収集源としては、訪日前は「動画サイト」や「SNS」、訪日中は「スマートフォン」が多く、いずれもインターネットを通じた情報収集が主となっている。

【訪日前に役に立った情報収集源】



【訪日中に役に立った情報収集源】



<観光庁「訪日外国人の消費動向 2023年年次報告書」>

【2018年の情報収集源】

	訪日前	訪日中
1位	個人のブログ (30.6%)	インターネット (スマートフォン) (69.9%)
2位	SNS (23.7%)	インターネット (パソコン) (17.6%)
3位	自国の親族・知人 (17.6%)	観光案内所 (空港除く) (15.9%)

観光を取り巻く状況

Ⅱ. 本県観光の状況

Ⅱ. 本県観光の状況

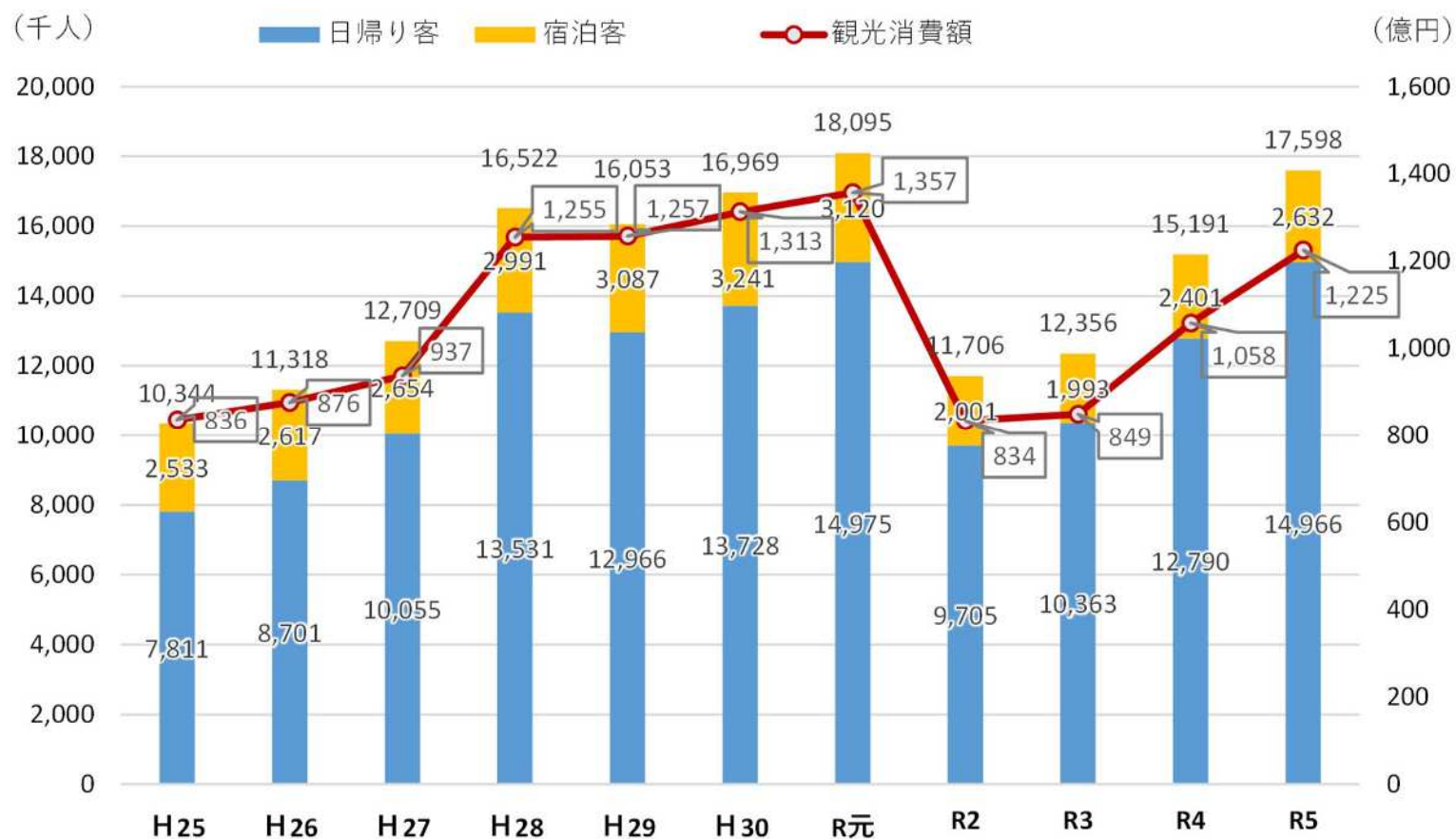
(1-1) 観光客入込数・観光消費額

◇本県の観光客入込数・観光消費額は、新型コロナウイルス感染症の流行により、令和2年～令和3年にかけて大きく減少した後、回復傾向にあるがコロナ禍前の令和元年の水準には戻っていない。

◇観光客入込数について、平成25年から令和5年の日帰り客の増加率(91.6%)に対し、消費額の大きい宿泊客の増加率(3.9%)は小さい。

◇国の旅行・観光消費動向調査によると、令和5年の本県への国内旅行者の観光消費単価は、宿泊旅行で62,878円(全国28位)、日帰り旅行で16,084円(全国37位)となっている。

【本県の観光客入込数(実人数)と観光消費額の推移】



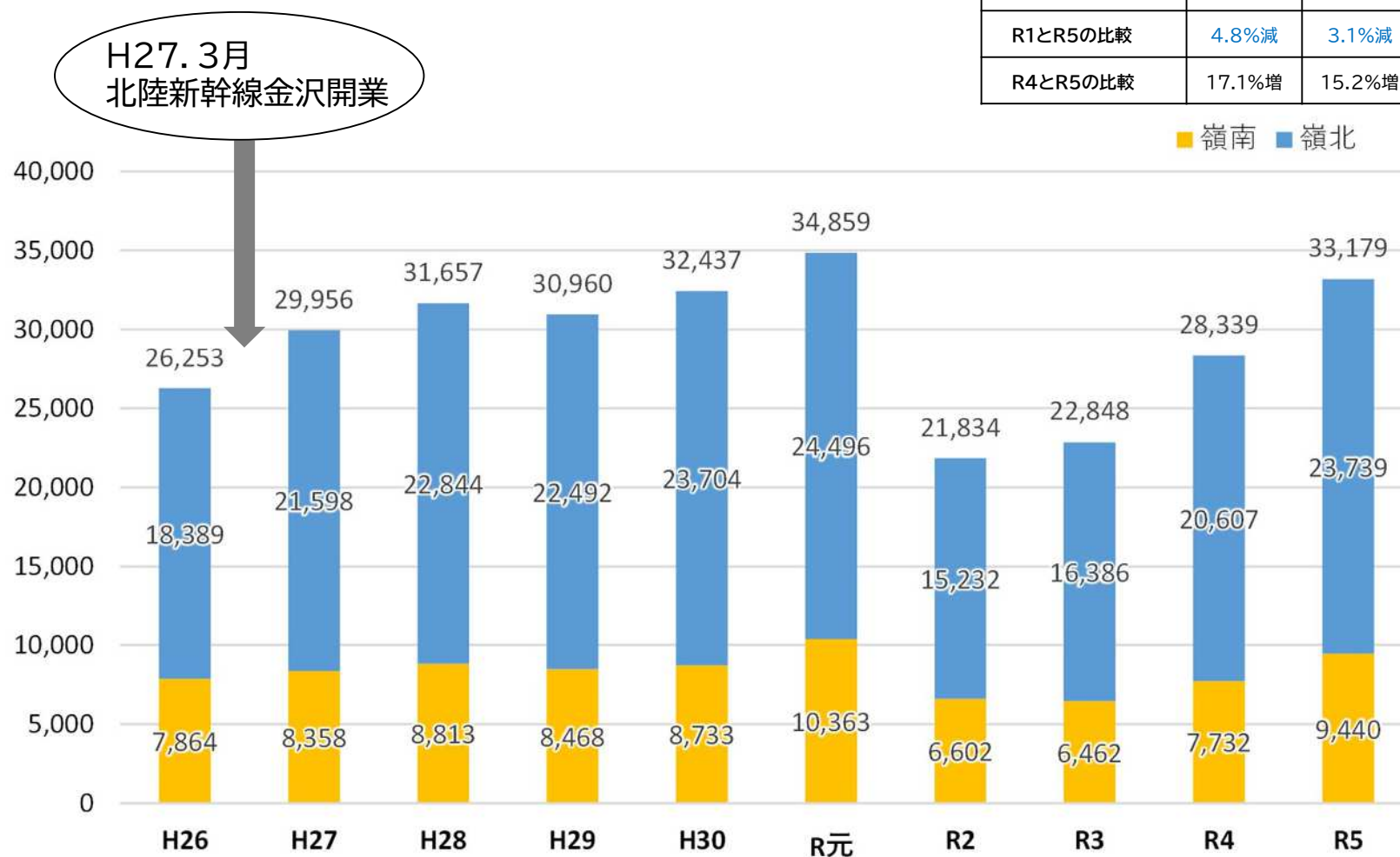
Ⅱ. 本県観光の状況

(1-2) 嶺北・嶺南別の観光客入込数

◇観光客入込数(延べ人数)は、嶺北・嶺南ともに増加傾向にあるが、コロナ禍前の令和元年の水準までは回復していない。

【嶺北、嶺南の観光客入込数の推移(延べ人数)】

	全体	嶺北	嶺南
H26とR5の比較	26.4%増	29.1%増	20.0%増
H30とR5の比較	2.3%増	0.1%増	8.1%増
R1とR5の比較	4.8%減	3.1%減	8.9%減
R4とR5の比較	17.1%増	15.2%増	22.1%増

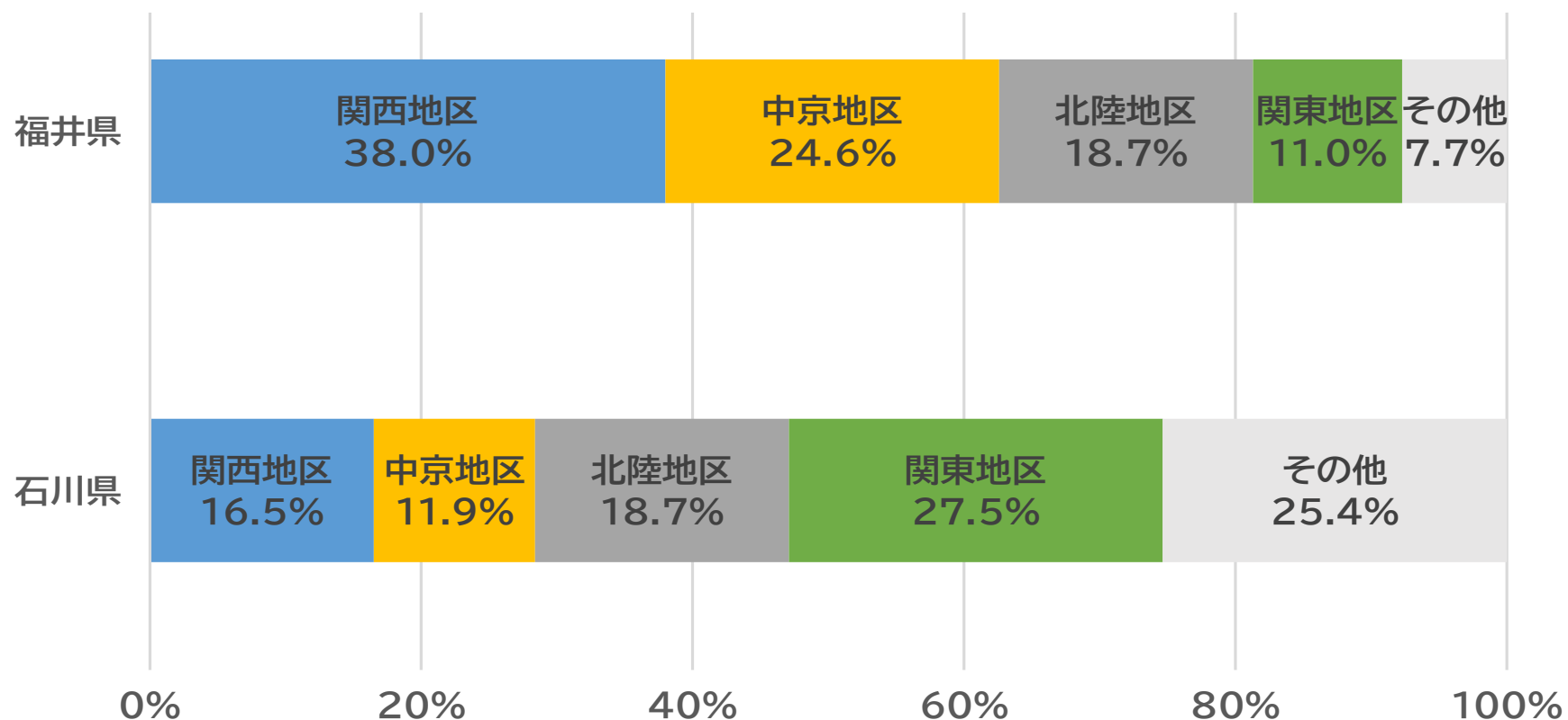


Ⅱ. 本県観光の状況

(1-3) 県外客の発地別割合

◇県外客の発地別割合(令和5年)をみると、本県は関西地区、中京地区の割合が高く、石川県との比較では関東地区域の割合が低い。

【本県を訪れる県外客の発地別割合】



<各県観光統計（令和5年）>

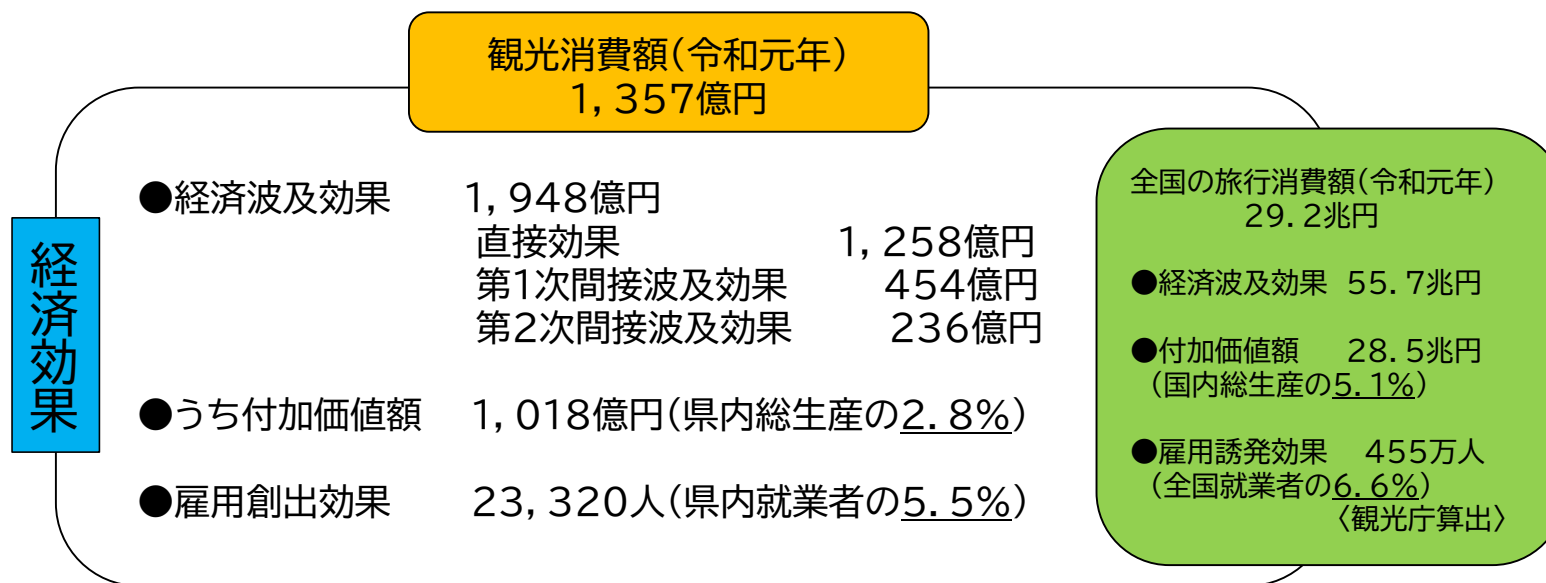
※その他は、海外、東北、四国、九州など

※石川県調査結果には、小松空港における調査を含む

Ⅱ. 本県観光の状況

(1-4) 観光消費がもたらす経済効果の推計

◇福井県で過去最高の観光消費額を記録した令和元年の観光消費額1,357億円により推計すると、県内への経済波及効果※1は1,948億円、付加価値額※2は1,018億円(県内総生産の2.8%)、雇用創出効果※3は23,320人(県内就業者数の5.5%)となり、県内総生産等に占める割合はそれぞれ同年の全国状況を下回っている。



<平成27年(2015年)福井県産業連関表(37部門)」を使用し、県統計「令和元年福井県観光客入込数」に基づき推計>

※1 経済波及効果=直接効果+第1次間接波及効果+第2次間接波及効果

※2 付加価値額 =生産活動によって新たに生み出された価値。県民経済計算の県内総生産(GRP)に相当。

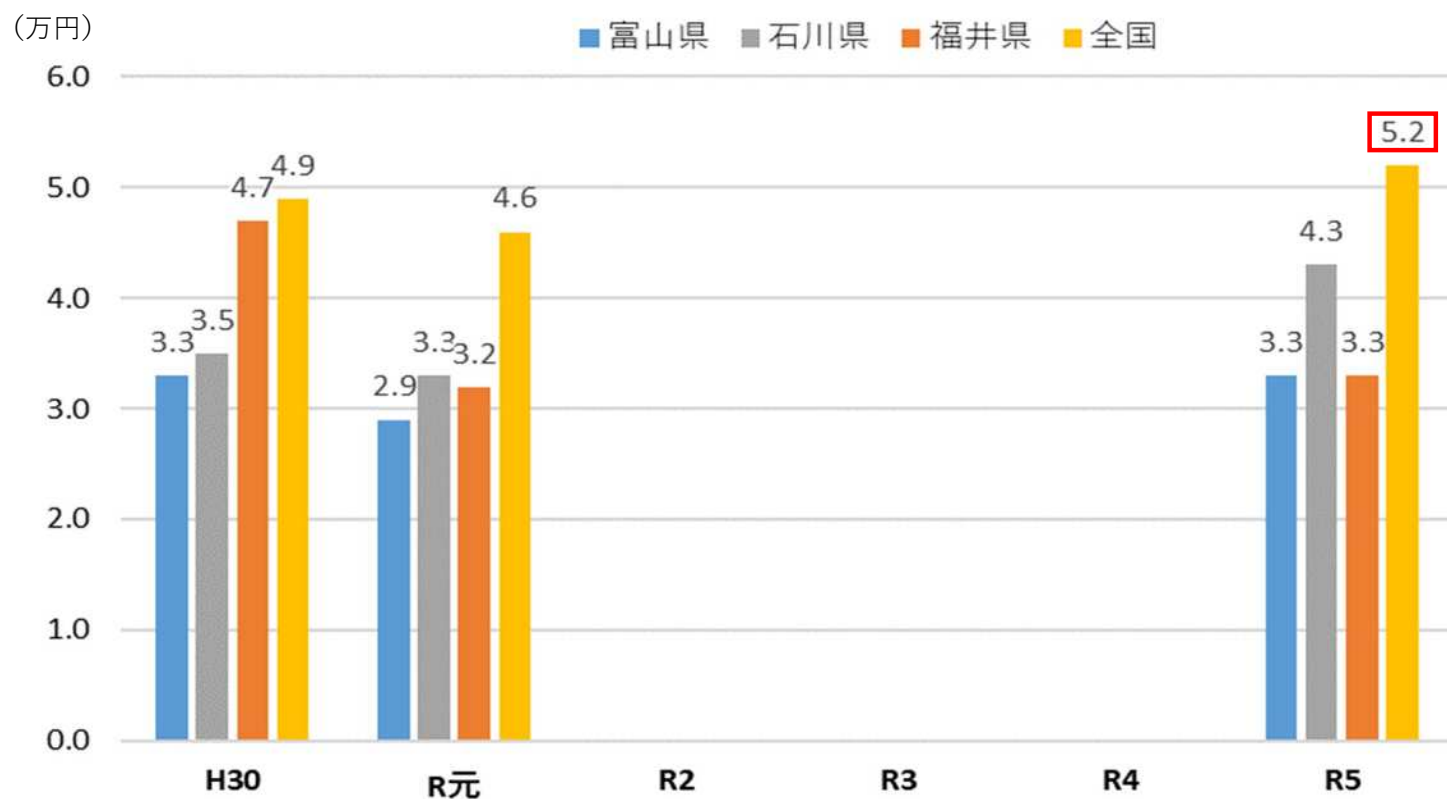
※3 雇用創出効果=経済波及効果の増加により必要となる雇用者数

Ⅱ. 本県観光の状況

(1-5) 外国人観光客の消費単価

◇福井県における外国人観光客1人あたりの消費単価は、北陸3県ではそれほど大きな差はないものの、令和5年は3.3万円/人(全国38位)であり、全国平均5.2万円/人と比べて少ない。

【北陸3県の外国人観光客の消費単価の推移(1人1回当たり旅行消費単価)】



<観光庁「インバウンド消費動向調査」>

※各年の調査期間は下記の通り

・H30:1～12月の通年

・R元 :1～12月の通年

・R2～4:コロナ禍のためデータなし

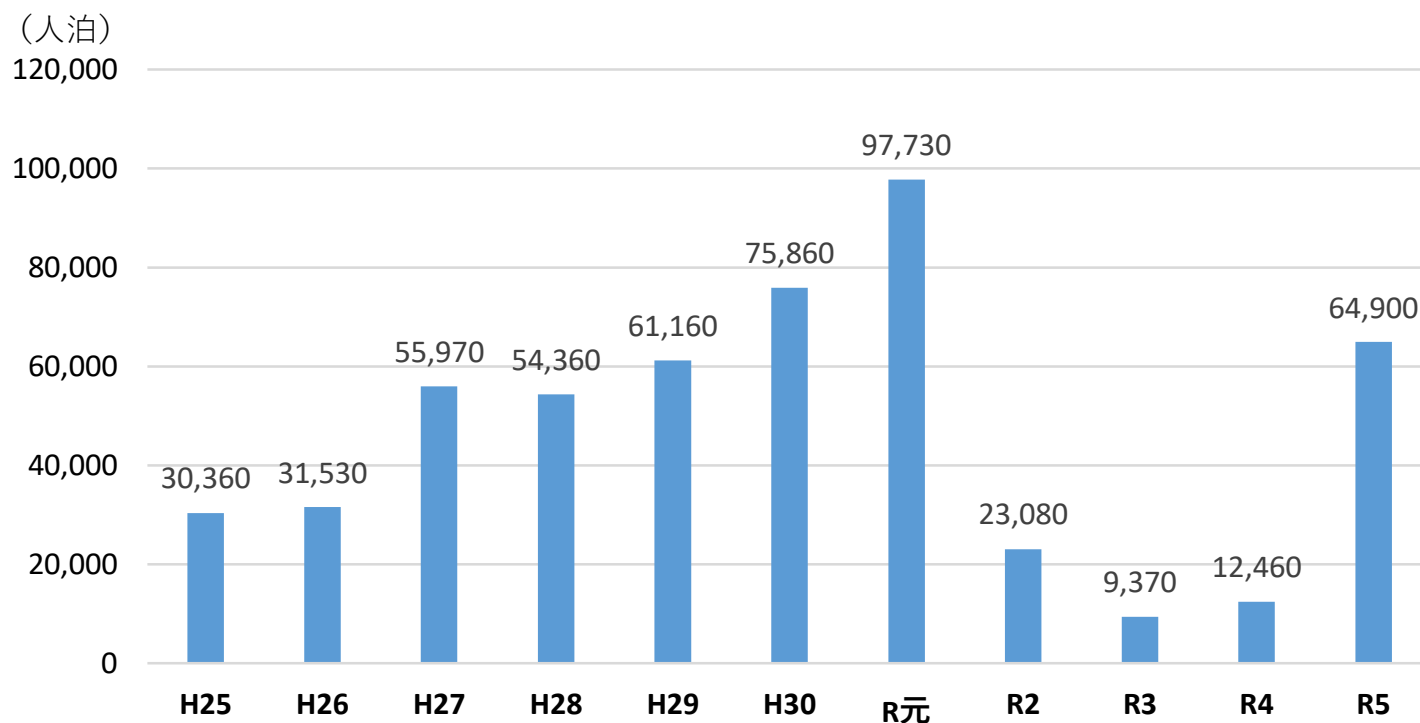
・R5 :4～12月

Ⅱ. 本県観光の状況

(2-1) 外国人宿泊者数

◇本県の外国人宿泊者数は、新型コロナウイルス感染症の流行により令和2年～令和4年で大きく減少し、令和5年は回復傾向にあるものの、他の指標と比べると回復が遅れている。また、北陸の他県と比較しても、本県の外国人宿泊者数は少ない。

【本県の外国人宿泊者数の推移】



【他県との比較】

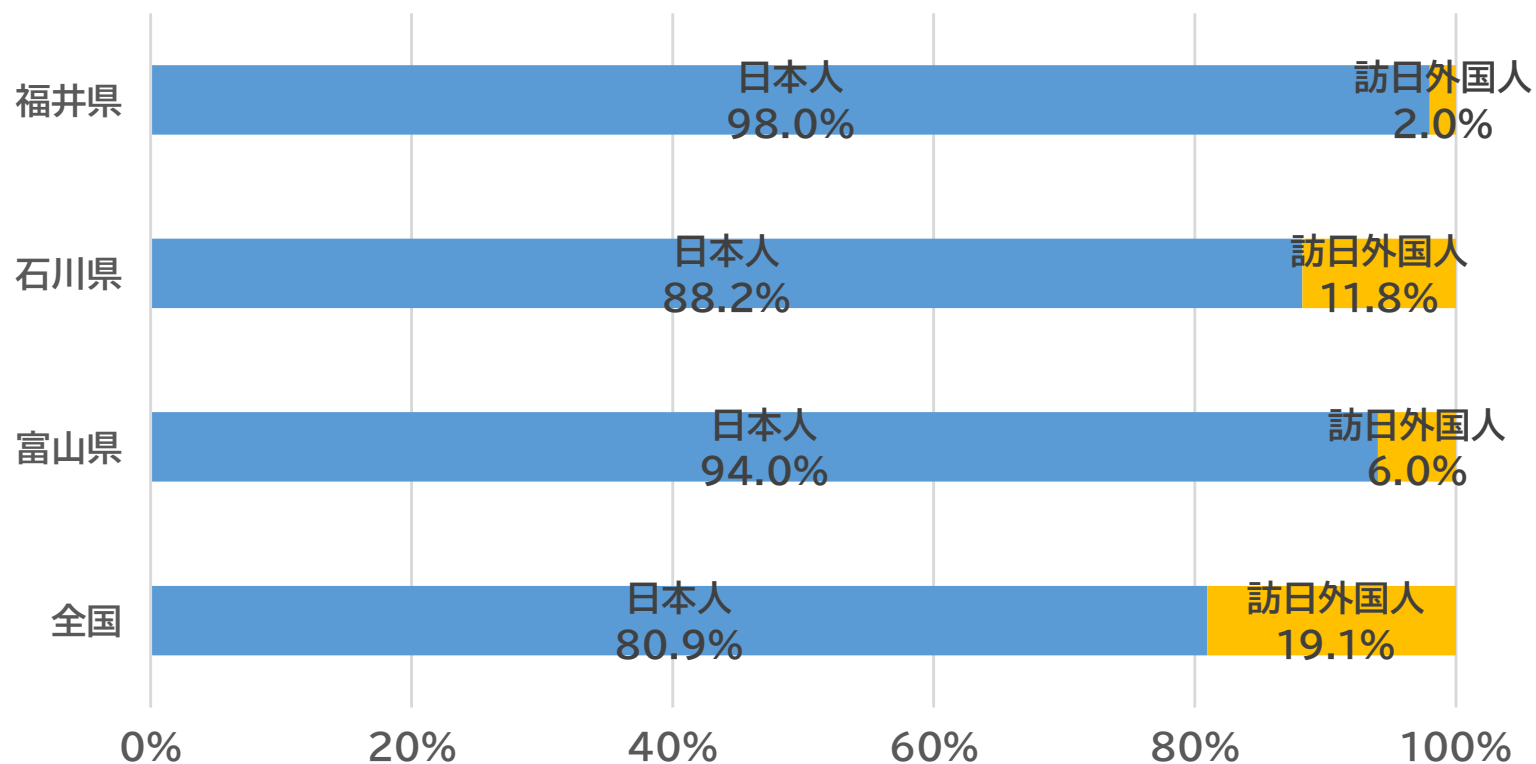
	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
石川県	326,380	348,290	517,430	623,460	777,240	973,950	984,720	189,490	13,150	87,210	1,027,510
富山県	136,290	142,070	207,790	222,270	287,720	306,200	357,830	50,770	10,870	41,660	235,830

Ⅱ. 本県観光の状況

(2-2) 外国人宿泊者の割合

◇本県の外国人宿泊者の割合は2.0%と、全国の19.1%、石川県の11.8%を大幅に下回っている。

【全国と本県の外国人宿泊者数の割合】



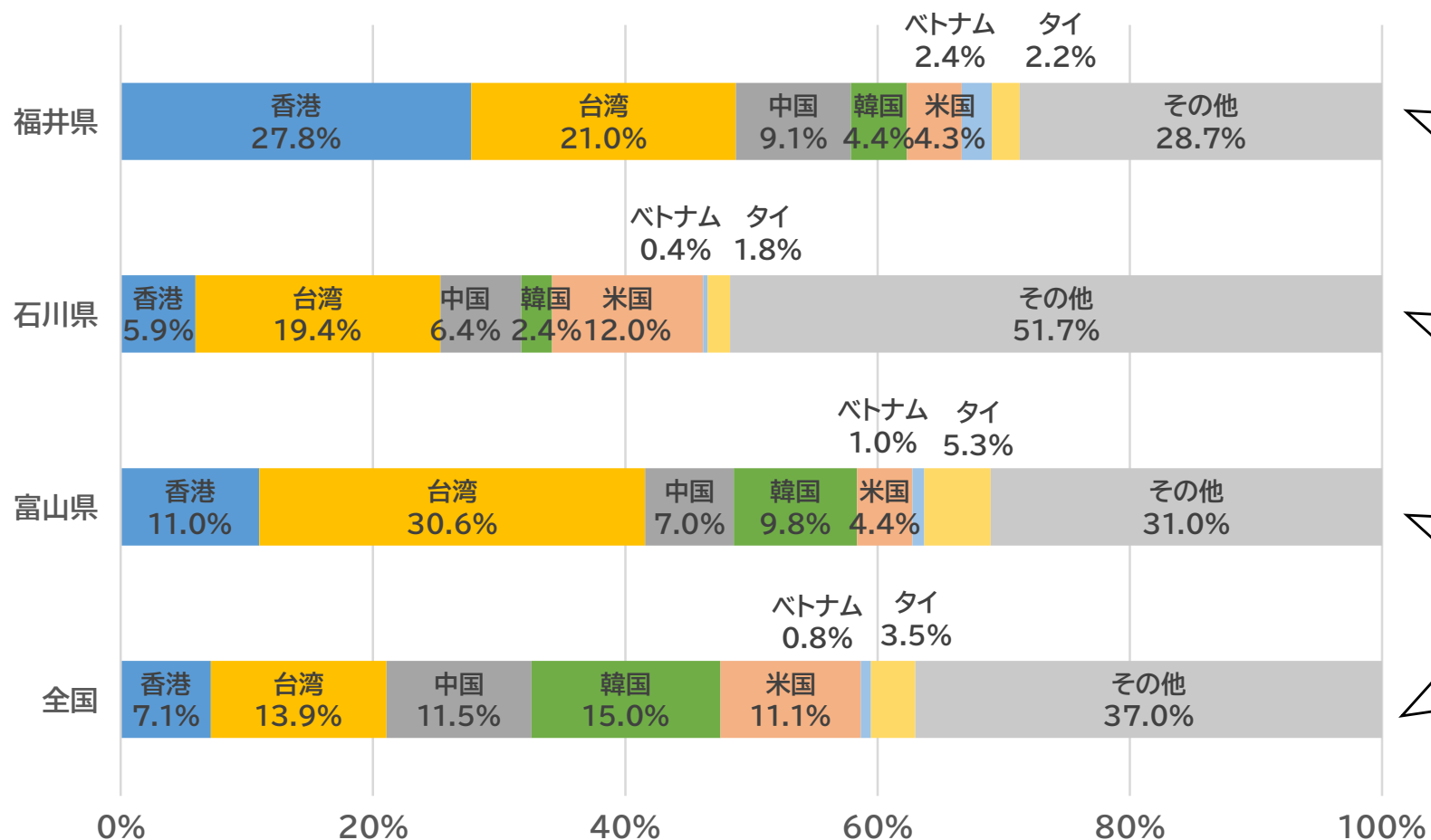
<観光庁「宿泊旅行統計調査（令和5年）」を基に算出>

Ⅱ. 本県観光の状況

(2-2) 外国人宿泊者の国別割合

- ◇本県の外国人宿泊者について、国別では香港や台湾の割合が高く、全国と比較すると中国や韓国、米国の割合が低い。
 ◇全国や北陸三県と比較すると、本県は香港の割合が非常に高い。

【本県の外国人宿泊者の国別割合】



【各県の「その他」の内訳
(上位五か国)】

シンガポール :1.9%
 ドイツ :1.8%
 英国 :1.2%
 インド、フィリピン
 オーストラリア :1.0%

オーストラリア :5.7%
 イタリア :5.0%
 英国 :3.9%
 フランス :3.8%
 シンガポール :3.7%

シンガポール :6.1%
 インドネシア :3.2%
 オーストラリア :2.0%
 マレーシア :1.9%
 英国 :1.1%

オーストラリア :3.7%
 シンガポール :3.7%
 英国 :2.0%
 カナダ :1.8%
 フィリピン、インドネシア
 フランス、マレーシア :1.6%

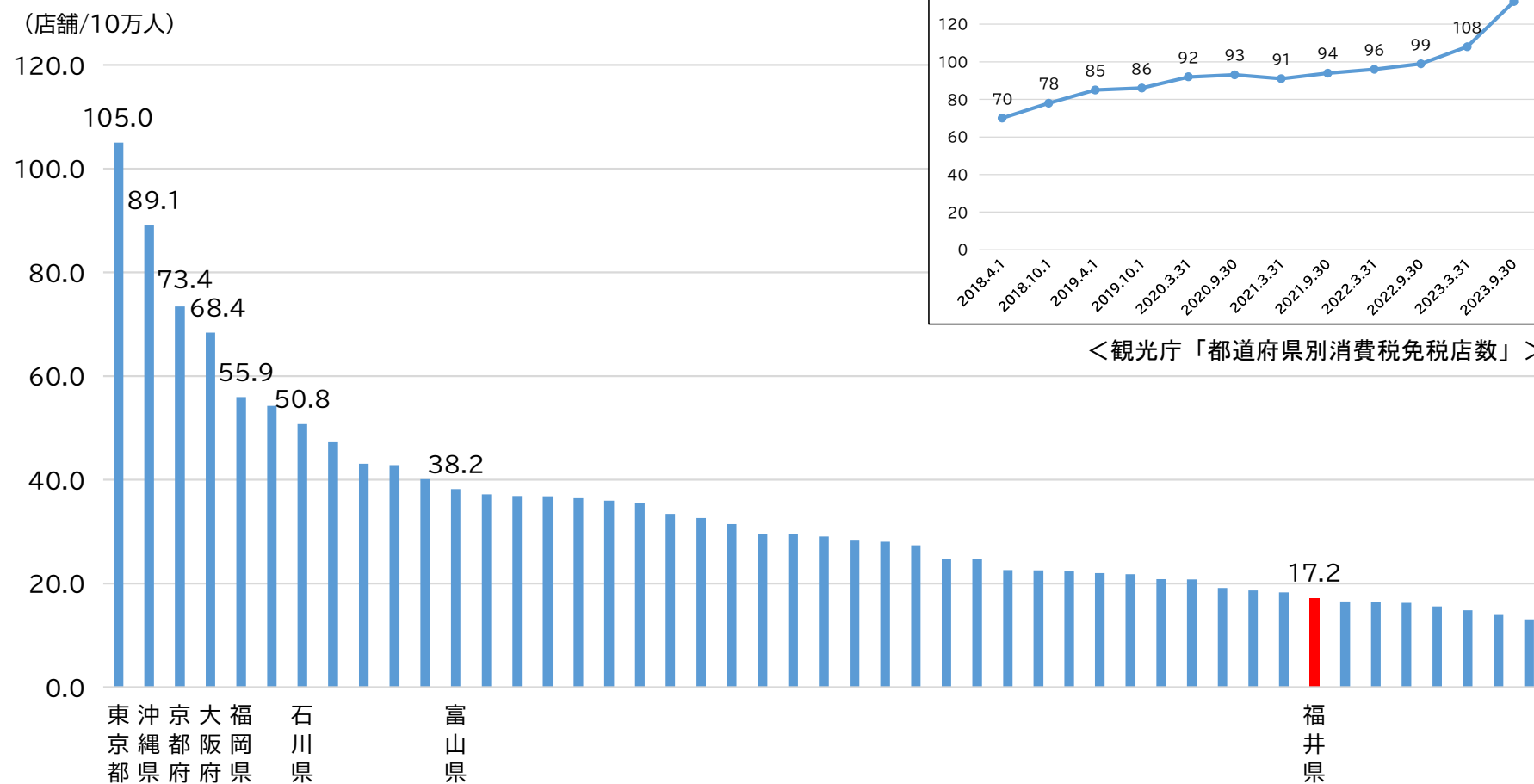
<観光庁「宿泊旅行統計調査(令和5年)」を基に算出>

Ⅱ. 本県観光の状況

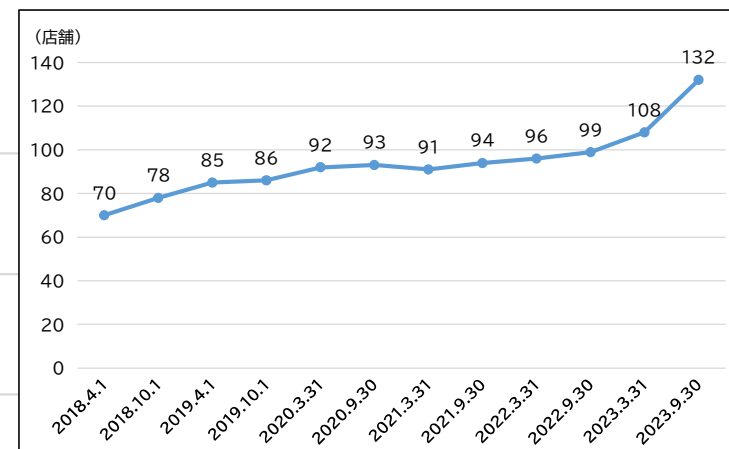
(3) 人口当たりの消費税免税店数

◇県内の消費税免税店数は増加傾向にあるものの、令和5年9月時点で人口10万人あたりの消費税免税店数は17.2件と、全国で8番目に少ない。

【人口10万人あたりの消費税免税店数】



【福井県の消費税免税店数の推移】



＜観光庁「都道府県別消費税免税店数」＞

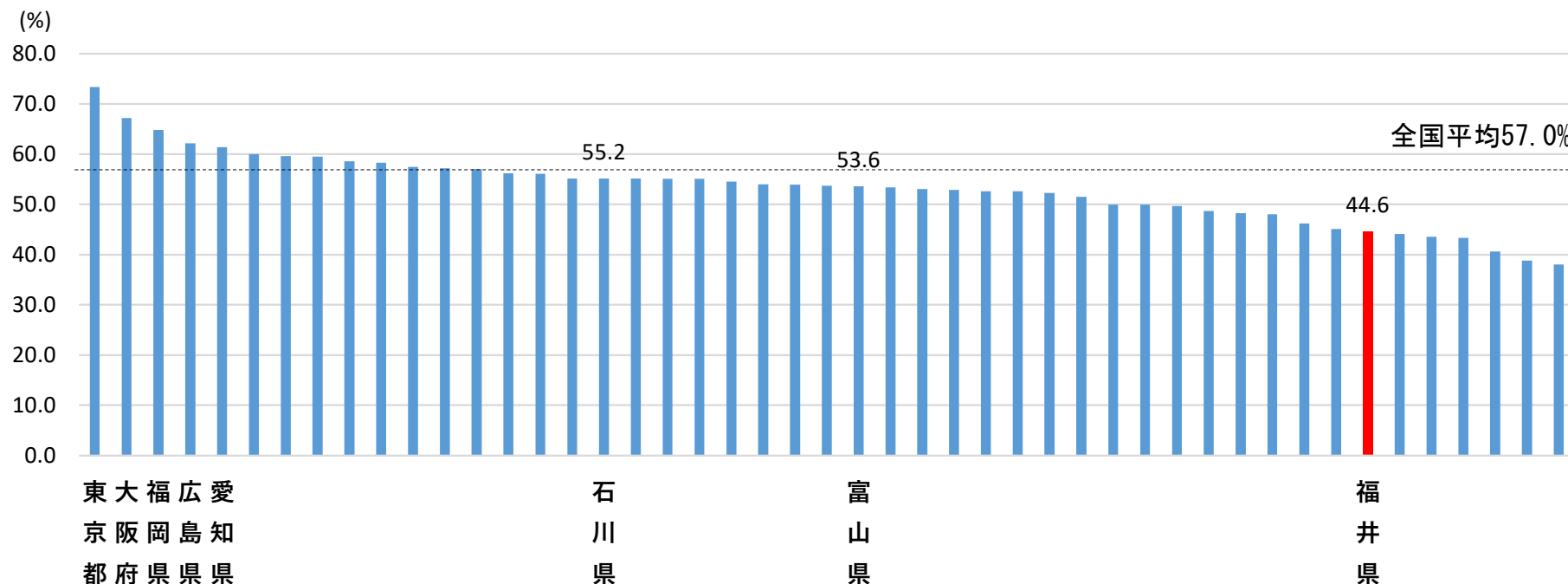
＜観光庁「都道府県別消費税免税店数（令和5年9月30日現在）」＞

Ⅱ. 本県観光の状況

(4-1) 宿泊施設数と稼働率

- ◇令和5年の本県の宿泊施設の客室稼働率は44.6%(令和4年42.5%、令和3年36.0%、令和2年35.7%)であり、コロナ禍から回復傾向にあるものの全国41位の水準になっている。ビジネスホテルの稼働率は比較的高い(全国8位)。
- ◇本県は旅館(民宿)数の割合が他県と比較し多く、季節変動が大きいため、全国平均より稼働率が低くなる傾向がある。

【客室稼働率】



【宿泊施設タイプ別宿泊施設数・客室稼働率(施設数／稼働率)】

	全体	うち、旅館	うち、リゾート ホテル	うち、ビジネス ホテル	うち、シティ ホテル
福井県	867／44.6%	390／29.5%	30／50.3%	50／70.4%	10／49.6%
石川県	1,036／55.2%	270／42.3%	20／47.6%	130／63.8%	20／65.7%
富山県	446／53.6%	160／32.1%	10／39.9%	100／61.6%	10／70.7%
稼働率の全国平均	57.0%	36.7%	51.9%	69.2%	68.8%

Ⅱ. 本県観光の状況

(4-2) 民間宿泊施設の収容人数

- ◇県内の民間宿泊施設における収容可能人数は、令和元年から令和5年にかけて約1,000人増加している。
- ◇本年も、福井駅西口のホテル(3月開業、収容人員約280名)など宿泊施設の開業が続いており、今後も数年の間に、複数のホテル等が県内各地で整備・開業される予定となっている。
- ◇一方で、本年3月の北陸新幹線福井・敦賀開業以降、福井駅周辺のホテルでは土日祝日の稼働率が9割を超える状況がみられるなど、県内の民間宿泊施設のボリュームはまだ不足している状況にある。

	ホテル・旅館		民宿・ペンション等		うち季節営業民宿		合計	
	軒数	収容人数	軒数	収容人数	軒数	収容人数	軒数	収容人数
令和元年	57	9,913	602	24,167	31	941	659	<u>34,080</u>
令和2年	42	8,949	651	25,721	26	828	693	34,670
令和3年	45	9,136	632	24,379	13	349	677	33,515
令和4年	48	9,823	639	24,973	17	520	687	34,796
令和5年	49	10,155	647	24,973	17	537	696	<u>35,128</u>
うち嶺北	36	7,239	298	12,575	4	195	334	19,814
うち福井市	10	2,086	109	4,903	2	60	119	6,989
うち嶺南	13	2,916	349	12,398	13	342	362	15,314

＜福井県観光統計＞

※キャンプ場（令和5年：6,744人）、社会教育施設（1,608人）、公共の宿泊施設（1,096人）を除く

Ⅱ. 本県観光の状況

(5-1) 魅力度・観光意欲度

◇本県の魅力度は全国38位、観光意欲度は全国39位となっている。

(本県の地域資源に対する評価は、「優れた伝統技術がある(9位)」「魅力的な街並みや歴史建造物がある(15位)」「地域を代表する産業や企業がある(17位)」「食事がおいしい(17位)」といった点が他県と比べて高くなっている。)

【魅力度の推移】

	R3	R4	R5	直近3か年の推移
福井県	第39位 (16.6点)	第37位 (16.6点)	第38位 (18.4点)	+1位 (+1.8点)
石川県	第10位 (32.5点)	第10位 (33.1点)	第9位 (33.4点)	+1位 (+0.9点)
富山県	第24位 (22.3点)	第23位 (24.7点)	第22位 (23.8点)	+2位 (+1.5点)

【観光意欲度の推移】

	R3	R4	R5	直近3か年の推移
福井県	第33位 (37.3点)	第31位 (39.4点)	第39位 (35.5点)	-6位 (-1.8点)
石川県	第8位 (50.0点)	第12位 (48.3点)	第9位 (48.5点)	△1位 (-1.5点)
富山県	第24位 (40.4点)	第22位 (43.4点)	第19位 (44.6点)	+5位 (+4.2点)

<ブランド総合研究所「地域ブランド調査」>

※地域ブランド調査は、地域のブランド力を消費者視点で評価・測定するインターネットアンケート調査。

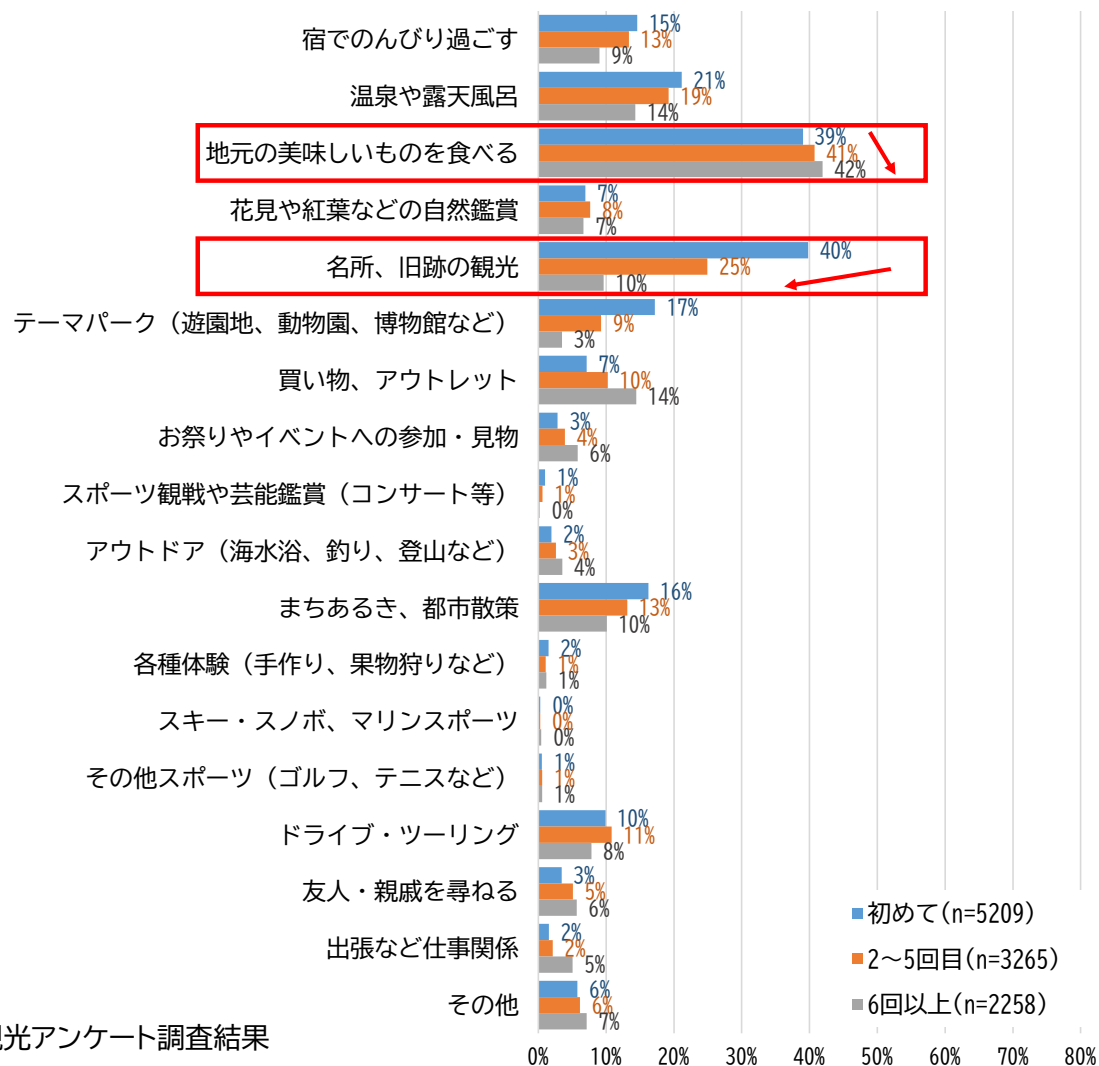
※地域のブランド力について、消費者が各地域に抱く魅力を数値化。その地域が魅力的かどうかを問い、さらにその魅力が何に起因するかを、「居留意欲度」「観光意欲度」「産品購入意欲度」等といった様々な項目を設けて調査。

Ⅱ. 本県観光の状況

(5-2) 福井への来訪目的

- ◇すべての訪問回数で「地元の美味しいものを食べる」が上位で、訪問回数が増えるほど微増する。
 ◇「名所、旧跡の観光」など、訪問回数が増えるほど、訪問目的となる割合が低下する項目がみられる。

【訪問回数別の福井への来訪目的(新幹線開業後)】



出典: 令和6年度福井県観光アンケート調査結果
 (福井県観光データ分析システム「FTAS」より)

Ⅱ. 本県観光の状況

(5-3) 歴史的風土と名勝

◇「美しい日本の歴史的風土 100選」では5件が選出されているほか、名勝の数では京都、滋賀に次ぐ14件が登録されており、いずれも全国で3番目に多い。

【美しい日本の歴史的風土 100選】

	1 位	2 位	3 位
都道府県 (名称数)	岐阜県 (8 件)	長野県 (6 件)	福井県 (5 件)

<財団法人古都保存財団「美しい日本の歴史的風土100選(平成19年)」>

【内訳】

- 曹洞宗大本山 永平寺(永平寺町)
- 戦国大名朝倉氏一乗谷遺跡、松平家城下町の遺産(福井市)
- 越前和紙の里 五箇地域(越前市)
- 小浜の社寺群、酒井家城下町 小浜(小浜市)
- 白山振興の拠点 平泉寺(勝山市)

【名勝数】

	1 位	2 位	3 位
都道府県名 (件数)	京都府 (38 件)	滋賀県 (18 件)	福井県 (14 件)

【内訳】

- 気比の松原(敦賀市)
- 旧玄成院庭園(勝山市)
- 伊藤氏庭園(南越前町)
- 西福寺書院庭園(敦賀市)
- 三方五湖(美浜町、若狭町)
- 梅田氏庭園(池田町)
- 三田村氏庭園(越前市)
- おくのほそ道の風景地
けいの明神(気比神宮境内)(敦賀市)
- 瀧谷寺(坂井市)
- 萬徳寺庭園(小浜市)
- 柴田氏庭園(敦賀市)
- 若狭蘇洞門(小浜市)
- 城福寺庭園(越前市)
- 養浩館庭園(福井市)

<文化庁「国宝・重要文化財等都道府県別指定件数」(令和6年7月1日時点)>

Ⅱ. 本県観光の状況

(5-4) 世界的・全国的な観光資源

◇世界三大輝石安山岩の柱状節理「東尋坊」や日本三大珍味「越前の雲丹」など、本県の歴史や自然に育まれた多くの貴重な地域資源がある。

【世界三大〇〇、日本三大〇〇】

- ・世界三大輝石安山岩の柱状節理 → 東尋坊
(他、ノルウェー西海岸、朝鮮半島の金剛山)
- ・世界三大恐竜博物館 → 福井県立恐竜博物館
(他、ロイヤル・ティレル古生物学博物館(カナダ)、自貢恐竜博物館(中国))
- ・日本三大珍味 → 越前の雲丹(うに)
(他、からすみ(長崎)、このわた(三河))
- ・日本三大水仙群生地 → 越前海岸
(他、房総半島、淡路島)
- ・日本三大松原 → 気比の松原
(他、虹の松原(佐賀県)、三保の松原(静岡県))
- ・日本三大木造大鳥居 → 氣比神宮
(他、厳島神社(広島県)、春日大社(奈良県))
- ・日本六古窯 → 越前焼
(他、瀬戸焼、常滑焼、信楽焼、丹波焼、備前焼)

Ⅱ. 本県観光の状況

(5-5) 県民の幸福度

- ◇幸福度ランキングでは福井県は5回連続全国1位となっている。分野別では、「仕事」「教育」の分野で1位となっており、「生活」面でも評価が高い。
- ◇北陸三県が上位を占めている。

【幸福度ランキングの推移】

	2016年版	2018年版	2020年版	2022年版
1位	福井県	福井県	福井県	福井県
2位	東京都	東京都	富山県	石川県
3位	富山県	長野県	東京都	東京都
4位	長野県	石川県	石川県	富山県
5位	石川県	富山県	長野県	長野県

【分野別ランキング】

健康分野 (医療健康、運動 体力)	仕事分野 (雇用、企業)	生活分野 (個人、地域)	教育分野 (学校、社会)
第11位	第1位	第4位	第1位

<日本総合研究所「全47都道府県幸福度ランキング2022」>

Ⅱ. 本県観光の状況

(6-1) 本県をめぐる交通の状況（北陸新幹線）

- ◇2023年3月14日に北陸新幹線が敦賀まで開業し、県内には4つの駅が設置された。
 ◇新幹線開業により福井・東京間の所要時間は30分以上短縮され、乗り換えも不要となった。
 ◇一方、大阪、名古屋からのアクセスは在来線の運行内容変更の影響により乗り換え回数が増えた。

【新幹線県内開業後の県内各駅から各都市間の所要時間等】

		東京駅		大阪駅		名古屋駅	
		開業前	開業後	開業前	開業後	開業前	開業後
芦原温泉駅	時間(分)	3:19※ ¹	2:51	1:48	1:41	1:48	1:41
	乗換(回)	1	0	0	1	1	2
福井駅	時間(分)	3:25※ ¹	2:51	1:36	1:33	1:37	1:33
	乗換(回)	1	0	0	1	1	2
越前たけふ	時間(分)	—	3:06	—	1:24	1:23	1:24
	乗換(回)	—	0	—	1	1	2
敦賀駅	時間(分)	2:51※ ²	3:08	1:21	1:20	1:02	1:03
	乗換(回)	1	0	0	0	1	1

※1：金沢経由、北陸新幹線使用

※2：米原経由、東海道新幹線利用

II. 本県観光の状況

(6-2) 本県をめぐる交通の状況 (中部縦貫自動車道・冠山峠道路)

◇本県と岐阜県を結ぶ中部縦貫自動車道大野油坂道路は、令和5年10月28日に九頭竜ICまでの区間が開通し、大野市内の移動が11分短縮した。

◇冠山峠道路も令和5年11月19日に開通し、池田町～岐阜県揖斐川町間の移動が44分短縮した。

【中部縦貫道九頭竜IC開通後の大野市内の所要時間】

	開通前	開通後	効果
大野市役所 ⇒和泉地域交流 センター	0 : 38	0 : 27	△11分

※開通後：国道158号経由

開通後：大野油坂道路経由



【冠山峠道路開通後の各都市間の所要時間】

	開通前	開通後	効果
池田町 ⇔岐阜県揖斐川町	2 : 29	1 : 23	△66分

※開通前：北陸道・名神ルート

開通後：冠山峠ルート



II. 本県観光の状況

(6-2) 本県をめぐる交通の状況 (中部縦貫自動車道県内全線開通)

◇令和8年春の中部縦貫自動車道大野油坂道路の全線開通により、本県(大野市)と中京圏との所要時間が約27分短縮され、新たな高速ルートの形成による観光入込増や周遊観光ルートの構築等が期待される。

(開通後(令和22年推計)には、車両交通量が九頭竜IC・油坂間で5,400台から10,400台に倍増すると推計されている。)

◇また、将来的に中部縦貫自動車道が長野県松本市まで全線開通すると、首都圏との所要時間が約50分短縮すると予測されている。

中京圏との新たな高速ルートの形成



【拠点】大野 ⇄ 中京圏

約27分 短縮

例) 大野(市役所)ー中京圏(一宮JCT)

→ : 現況(北陸・名神ルート)
約2時間10分(179km)

→ : 整備後(中部縦貫・東海北陸道ルート)
約1時間43分(128km)



縦横関連事業者

中部縦貫自動車道の整備によって、「搬送時間の短縮」や積雪時の「安定した交通路」の確保に期待している。

高速ネットワークの形成による拠点アクセス性の向上



【拠点】福井 ⇄ 首都圏

約50分 短縮

例) 福井(市役所)ー東京(都庁)

→ : 現況(名神・東名ルート)
約6時間37分(520km)

→ : 整備後(中部縦貫道ルート)
約5時間47分(429km)

※中部縦貫自動車道全線開通による整備効果

出典: 中部縦貫自動車道: 設計速度(永平寺大野道路: 80km/h、大野油坂道路: 60km/h、岐阜・長野県側: 80km/h)
その他の路線: 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査(混雑時平均旅行速度)

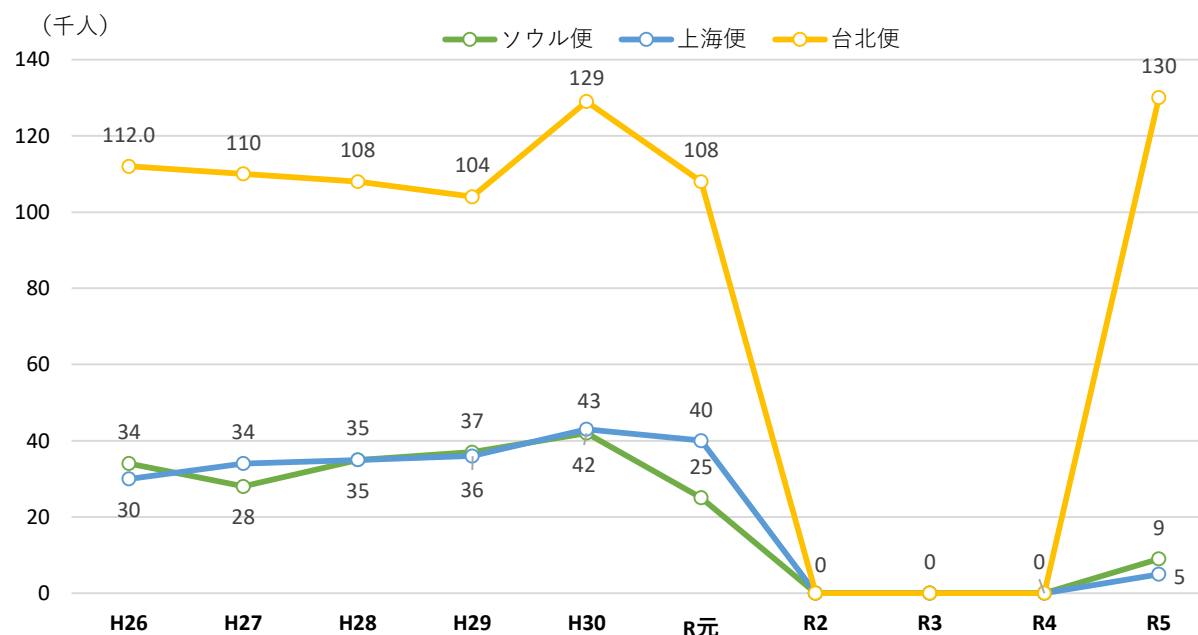
Ⅱ. 本県観光の状況

(6-3) 本県をめぐる交通の状況(小松空港国際線)

◇本県の空の玄関口である小松空港の国際線は、ソウル便(週3便)、上海便(週2便)、台北便(毎日運航)に加え、平成31年4月には香港便の定期便(週2便、10月26日までの季節運航便)の就航が開始した。

◇いずれも新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、令和2年～令和4年はいずれも運休であった。台北便は令和5年に平成26年以降最多と回復したが、ソウル便・上海便は回復しきっておらず、香港便は現在も休止中である。

【小松空港国際線利用実績】



【小松空港国際線運航状況】

	ソウル便	上海便	台北便
航空会社	大韓航空	中国東方航空 日本航空	エバー航空、全日空 タイガーエア台湾
所要時間	1時間45分	1時間55分	2時間10分 2時間15分

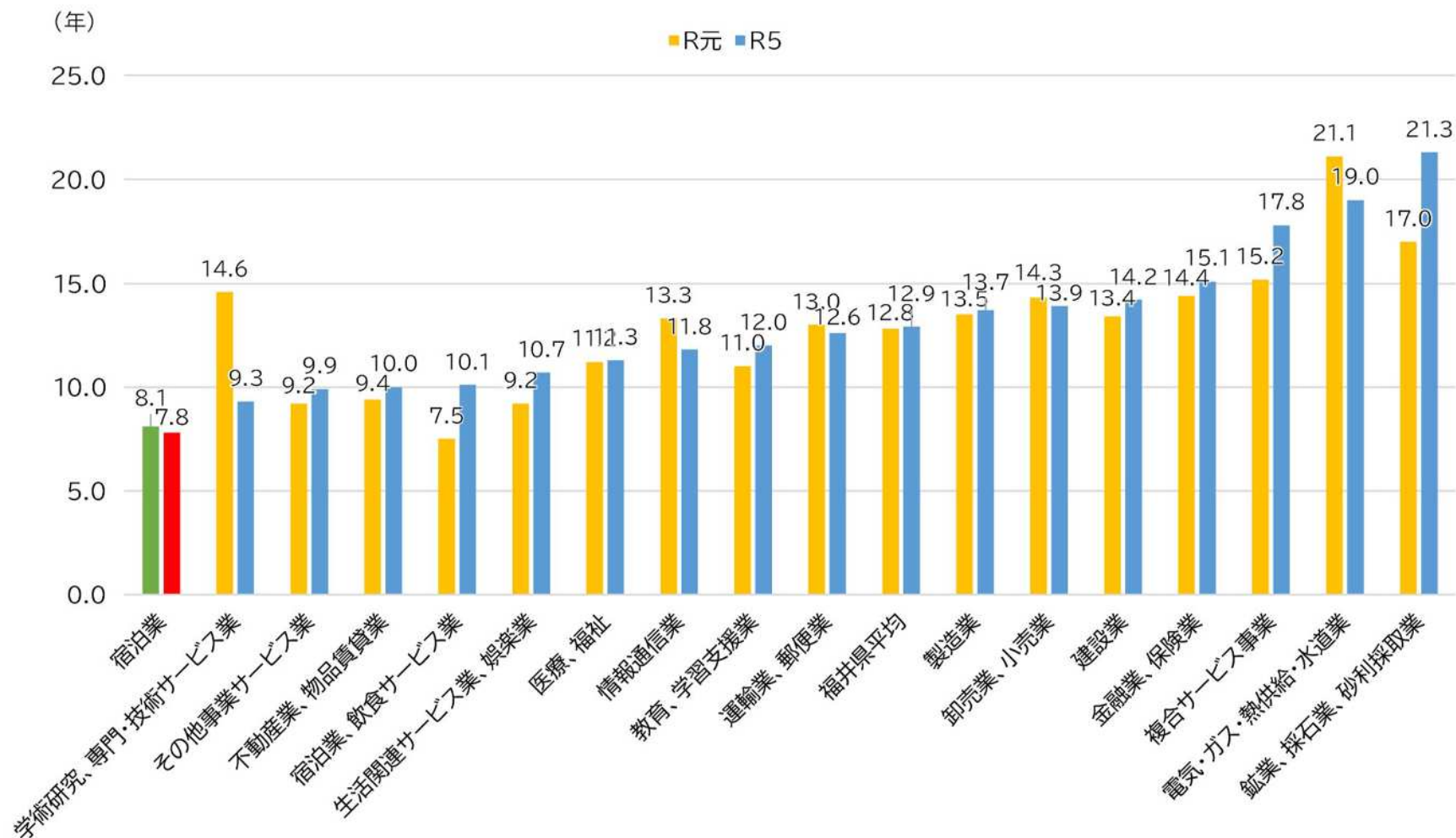
※所要時間について、ソウル便はソウル⇒小松、上海便、台北便は小松⇒上海
台北便は上がエバー航空と全日空、下がタイガーエアー台湾の所要時間

Ⅱ. 本県観光の状況

(7-1) 本県の観光産業従事者の状況

◇令和5年における福井県の全産業平均勤続年数が12.9年であるのに対し、宿泊業の勤続年数は7.8年と、全産業の中で最も低くなっている。新型コロナウイルス感染症流行前後で、宿泊業の勤続年数は大きく変化していない。

【本県の産業別勤続年数(R元とR5の比較)】

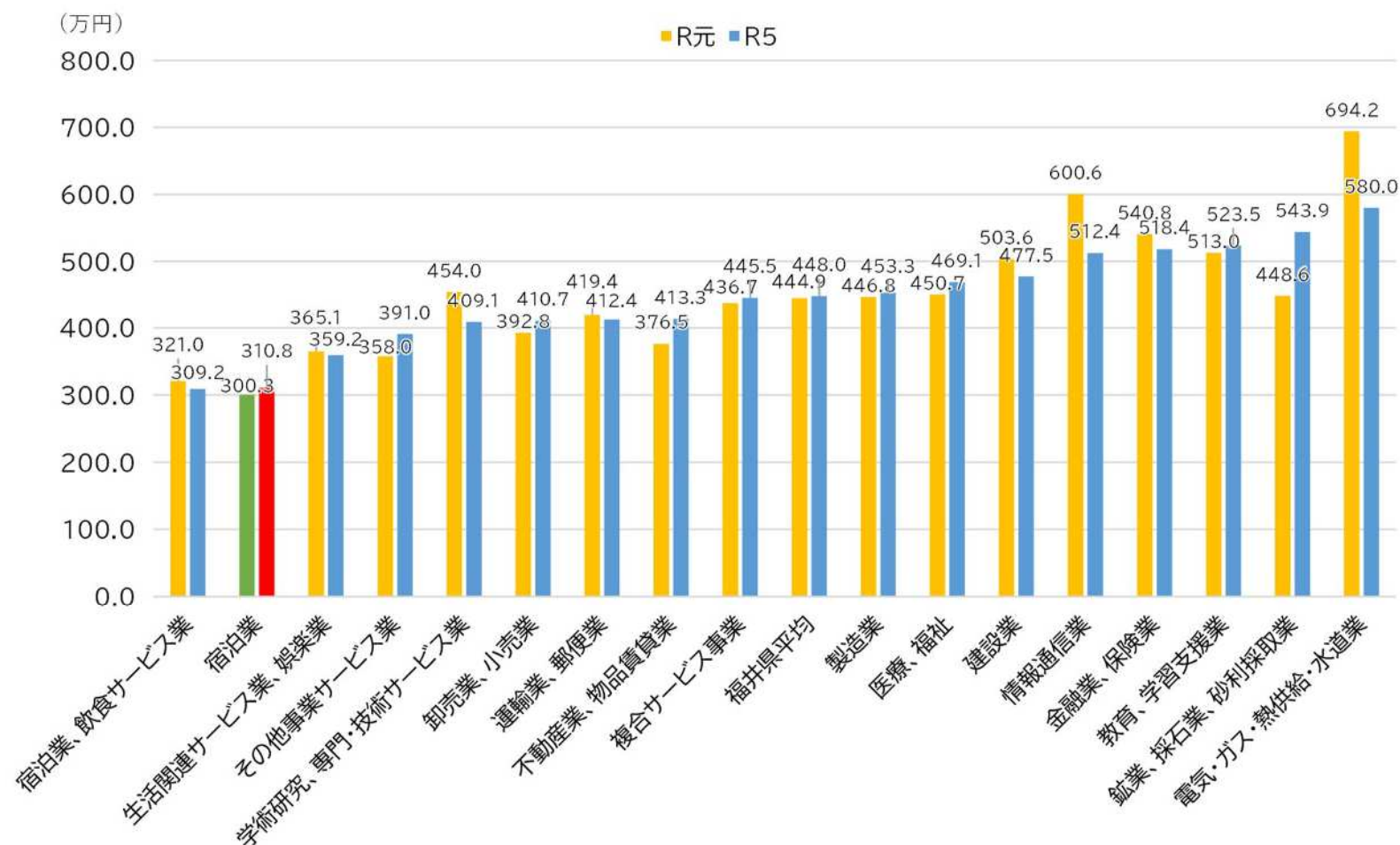


Ⅱ. 本県観光の状況

(7-2) 本県の観光産業従事者の状況

◇令和5年における福井県の平均年収が448.0万円であるのに対し、宿泊業の平均年収は310.8万円と、全産業の中では二番目に低くなっている。新型コロナウイルス感染症流行前後で、宿泊業の平均年収は大きく変化していない。

【本県の産業別平均年収】



<厚生労働省「令和元年賃金構造基本統計調査」「令和5年賃金構造基本統計調査」>

Ⅱ. 本県観光の状況

(8-1) 北陸新幹線開業後の状況

◇北陸新幹線開業により、開業後5か月間では、全国からの来訪者が大幅(前年比123.0%)に増加した。特に、関東圏(前年比142.2%)・信越(176.5%)から来訪者が大幅に増加している。

【北陸新幹線福井・敦賀開業の効果／来訪エリア(開業後5か月間の状況)】

単位：万人

地域	開業5か月間 (R6:3.16～8.15 R5:3.18～8.17)				【参 考】					
	来訪者数	前年同期	増減数	前年比	1か月目	2か月目	3か月目	4か月目	5か月目	GW
					前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
関東圏	53.2	37.4	15.8	142.2%	162.5%	131.0%	152.4%	167.3%	118.0%	103.8%
関西圏	104.7	84.3	20.4	124.2%	138.8%	124.9%	124.7%	116.9%	115.5%	128.4%
中京圏	33.4	30.3	3.1	110.2%	131.7%	104.4%	109.1%	103.8%	102.9%	102.8%
北陸	69.2	62.1	7.1	111.4%	117.5%	110.3%	114.6%	106.8%	107.8%	107.4%
信越	9.0	5.1	3.9	176.5%	191.7%	200.0%	200.0%	200.0%	121.4%	116.7%
その他	24.6	19.9	4.7	123.6%	148.7%	130.8%	134.2%	100.0%	106.1%	133.3%
合計	294.1	239.1	55.0	123.0%	138.0%	121.3%	125.9%	119.2%	112.0%	115.2%

※来訪者数は、いずれもKDDIが保有するビッグデータを用いて算出した県推計値で、前年との比較が可能な芦原温泉駅周辺、福井駅周辺、敦賀駅周辺の合計値かつ延べ人数

関東圏：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県、茨城県、群馬県

関西圏：大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県

中京圏：愛知県、岐阜県、三重県

北陸：石川県、富山県（福井県を除く）

信越：新潟県、長野県

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、

個人を特定できない処理を行って集計しております。

※表の縦横の合計値は、四捨五入の関係で合わない場合がある。

<KDDI Location Analyzerより分析>

Ⅱ. 本県観光の状況

(8-2) 北陸新幹線開業後の状況（主要観光地）

◇北陸新幹線開業により、恐竜博物館や朝倉氏遺跡博物館等の主な観光施設の入込客数が増加している。特に、北陸新幹線終着駅である敦賀駅近くの赤レンガ倉庫は増加が顕著(前年比:149%)になっている。

【北陸新幹線福井・敦賀開業の効果／主要施設の入込客数(開業後5か月間の状況)】

一乗谷朝倉氏遺跡博物館



110%

恐竜博物館



120%

東尋坊



117%

敦賀赤レンガ倉庫



149%

年稿博物館



117%

- ※〔比較対象期間〕
- ・一乗谷朝倉氏遺跡博物館：R6. 3. 16～8. 15とR5. 3. 18～8. 17
 - ・恐竜博物館： R6. 3. 16～8. 15とH31. 3. 16～8. 15（R5はリニューアルによる閉館のため）
 - ・東尋坊、敦賀赤レンガ倉庫： R6. 3. 16～7. 31とR5. 3. 18～7. 31
 - ・年稿博物館： R6. 3. 16～8. 15とR5. 3. 18～8. 17

Ⅱ. 本県観光の状況

(8-3) 福井県観光アンケート調査による北陸新幹線開業後の状況

①居住地

◇新幹線開業前後の居住地の上位3位(1位:福井県、2位:愛知県、3位大阪府)に変化はないものの、新幹線開業により首都圏からのアクセス性が向上し、東京都が6位(5%)→4位(8%)に上昇している。
◇また、岐阜県が9位(3%)→7位(5%)に上昇しており、中部縦貫自動車道 大野油坂道路の勝原IC～九頭竜ICの開通(R5.10.28開通)や冠山峠道路の開通(R5.11.19開通)により岐阜県からの来訪者が増加した可能性がある。

【福井県来訪者の居住地(北陸新幹線開業前後での比較)】

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
新幹線開業後 (n=10732)	福井県 (26%)	愛知県 (10%)	大阪府 (9%)	東京都 (8%)	京都府 (6%)	兵庫県 (6%)	岐阜県 (5%)	石川県 (4%)	滋賀県 (4%)	神奈川県 (3%)
新幹線開業前 (n=21159)	福井県 (31%)	愛知県 (11%)	大阪府 (9%)	兵庫県 (6%)	京都府 (6%)	東京都 (5%)	滋賀県 (5%)	石川県 (5%)	岐阜県 (3%)	神奈川県 (3%)

出典:R5年度・令和6年度福井県観光アンケート調査結果
(福井県観光データ分析システム「FTAS」より)

※新幹線開業後:2024.3.16～2024.6.30
新幹線開業前:2023.4.28～2024.3.15

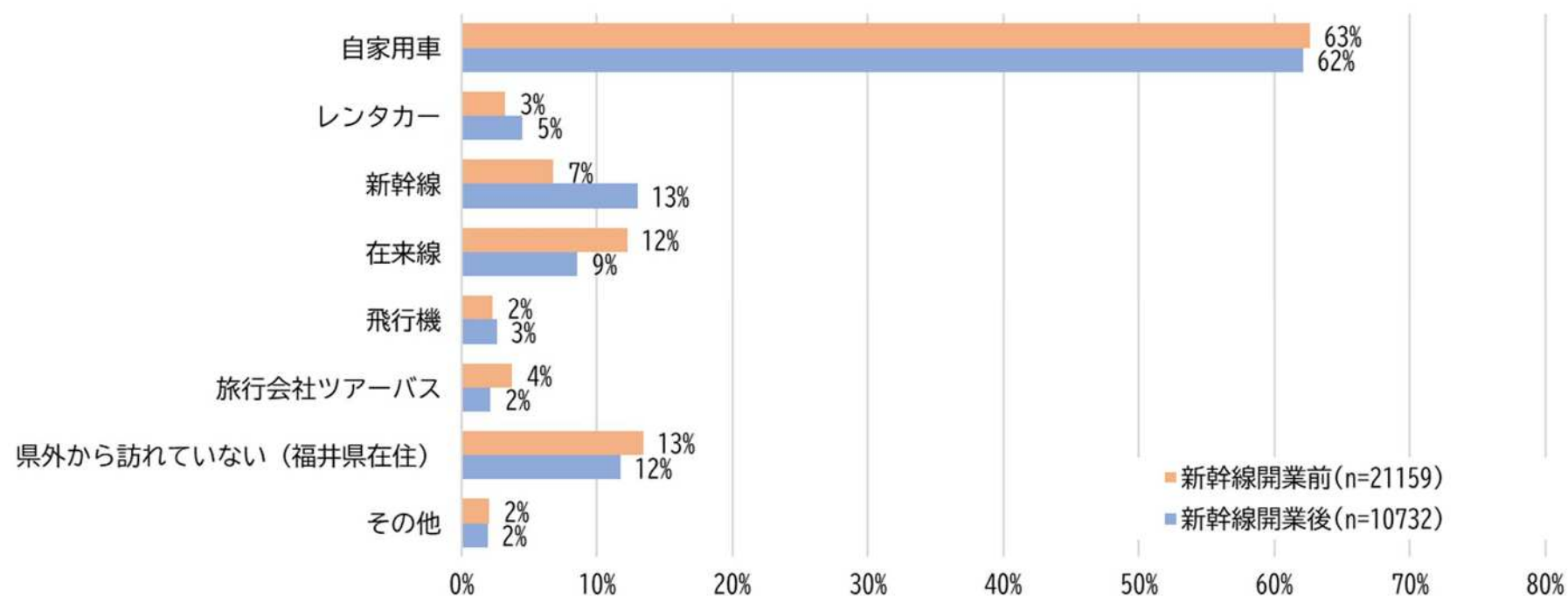
Ⅱ. 本県観光の状況

(8-3) 福井県観光アンケート調査による北陸新幹線開業後の状況

② 福井県までの交通手段（県全域）

- ◇新幹線開業前後の福井県までの交通手段では、「自家用車」が約6割と最も多くなっている。
◇公共交通では、「新幹線」が7%→13%に増加し、「在来線」が12%→9%と微減している。

【福井県来訪者の福井県までの交通手段（北陸新幹線開業前後での比較）】



出典：R5年度・令和6年度福井県観光アンケート調査結果
（福井県観光データ分析システム「FTAS」より）

※新幹線開業後：2024.3.16～2024.6.30
新幹線開業前：2023.4.28～2024.3.15

Ⅱ. 本県観光の状況

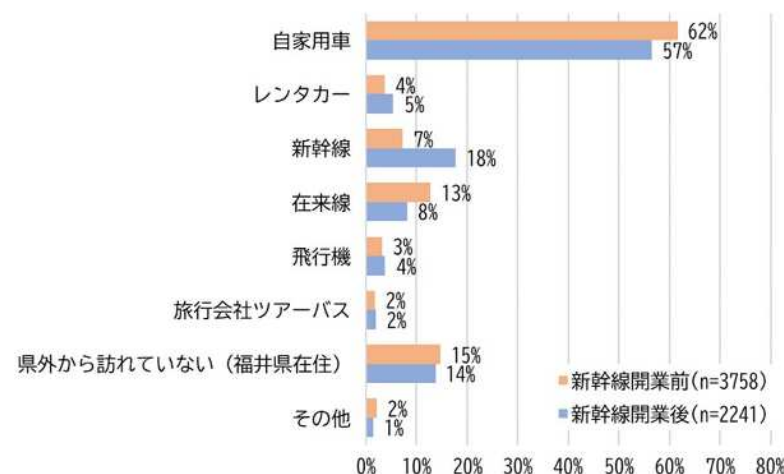
(8-3) 福井県観光アンケート調査による北陸新幹線開業後の状況

②福井県までの交通手段（6エリア別）

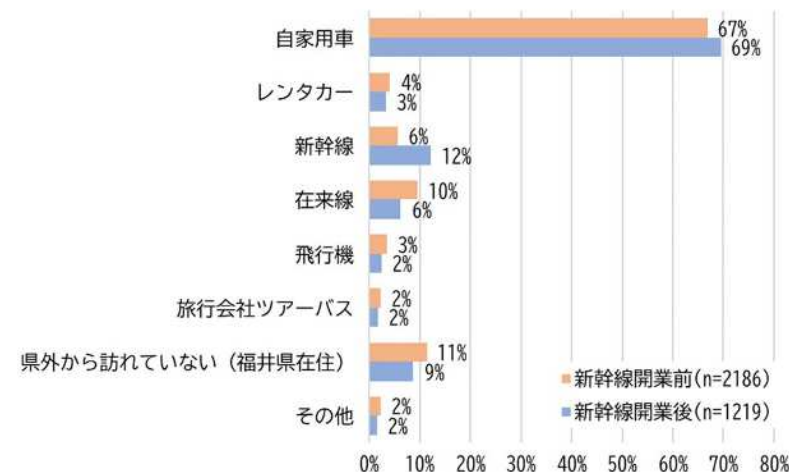
- ◇自家用車は、勝山・大野市で新幹線開業後に増加し、他の2エリアでは減少している。
 ◇公共交通では、新幹線があわら市・坂井市、福井市・永平寺町で増加し、在来線は3エリアで減少している。

【福井県来訪者の福井県までの交通手段(北陸新幹線開業前後での比較)】

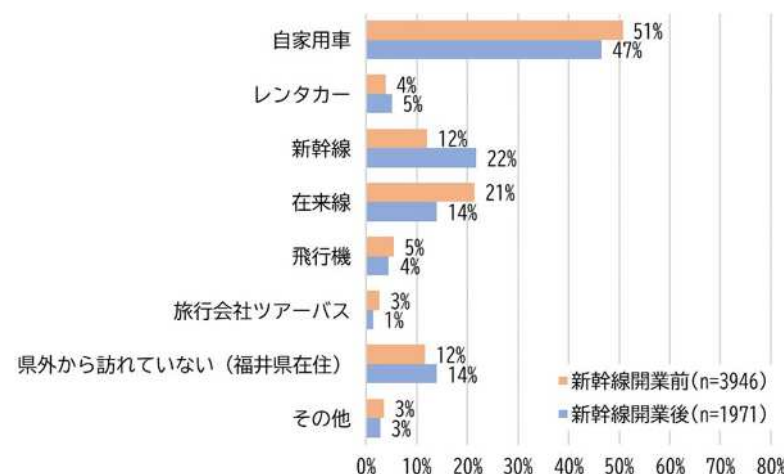
■あわら市・坂井市



■勝山市・大野市



■福井市・永平寺町



出典: R5年度・令和6年度福井県観光アンケート調査結果
 (福井県観光データ分析システム「FTAS」より)

※新幹線開業後: 2024.3.16~2024.6.30

新幹線開業前: 2023.4.28~2024.3.15

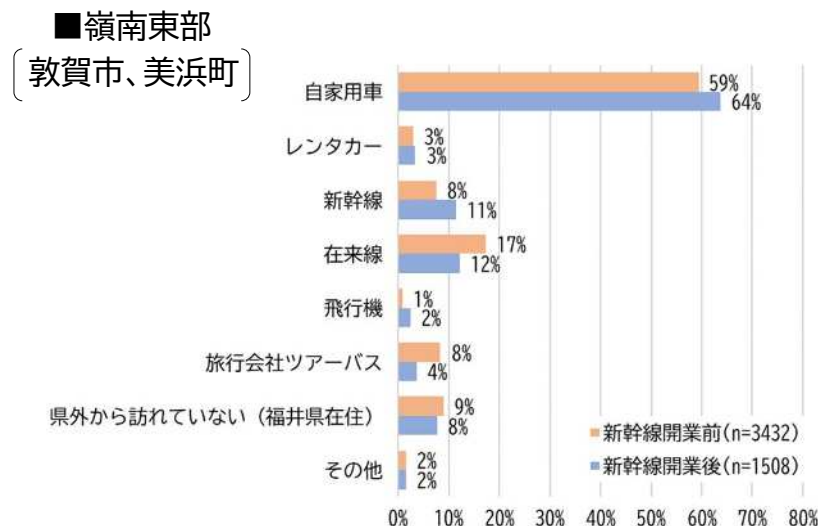
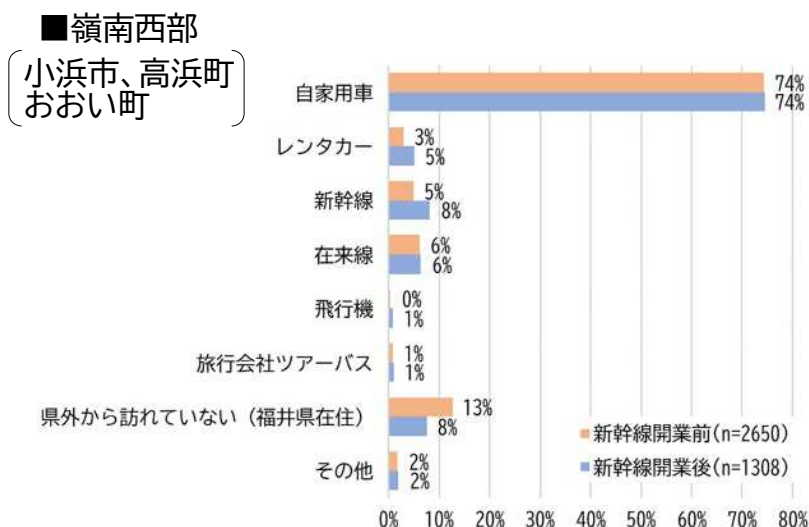
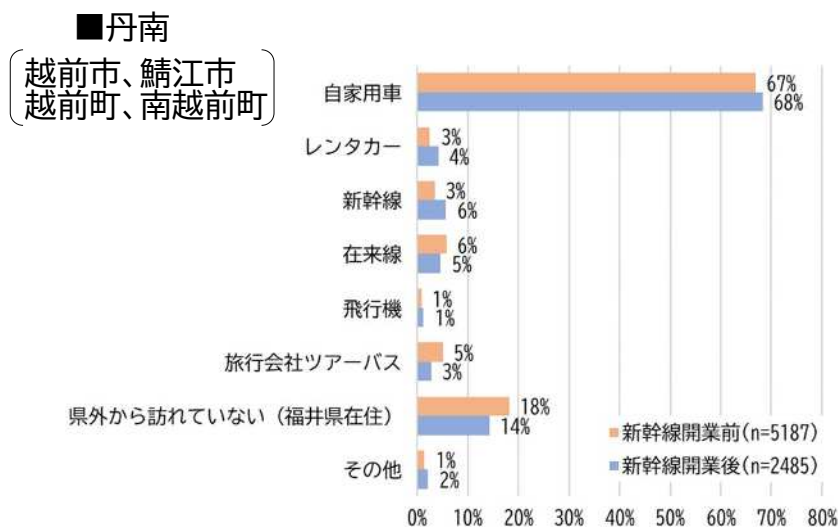
II. 本県観光の状況

(8-3) 福井県観光アンケート調査による北陸新幹線開業後の状況

② 福井県までの交通手段（6エリア別）

- ◇ 自家用車は、嶺南東部で増加し、他の2エリアでは横ばいとなっている。
 ◇ 公共交通では、新幹線が3エリアで微増となり、在来線では嶺南東部の増加している。

【福井県来訪者の福井県までの交通手段(北陸新幹線開業前後での比較)】



出典: R5年度・令和6年度福井県観光アンケート調査結果
 (福井県観光データ分析システム「FTAS」より)

※ 新幹線開業後: 2024.3.16~2024.6.30

新幹線開業前: 2023.4.28~2024.3.15

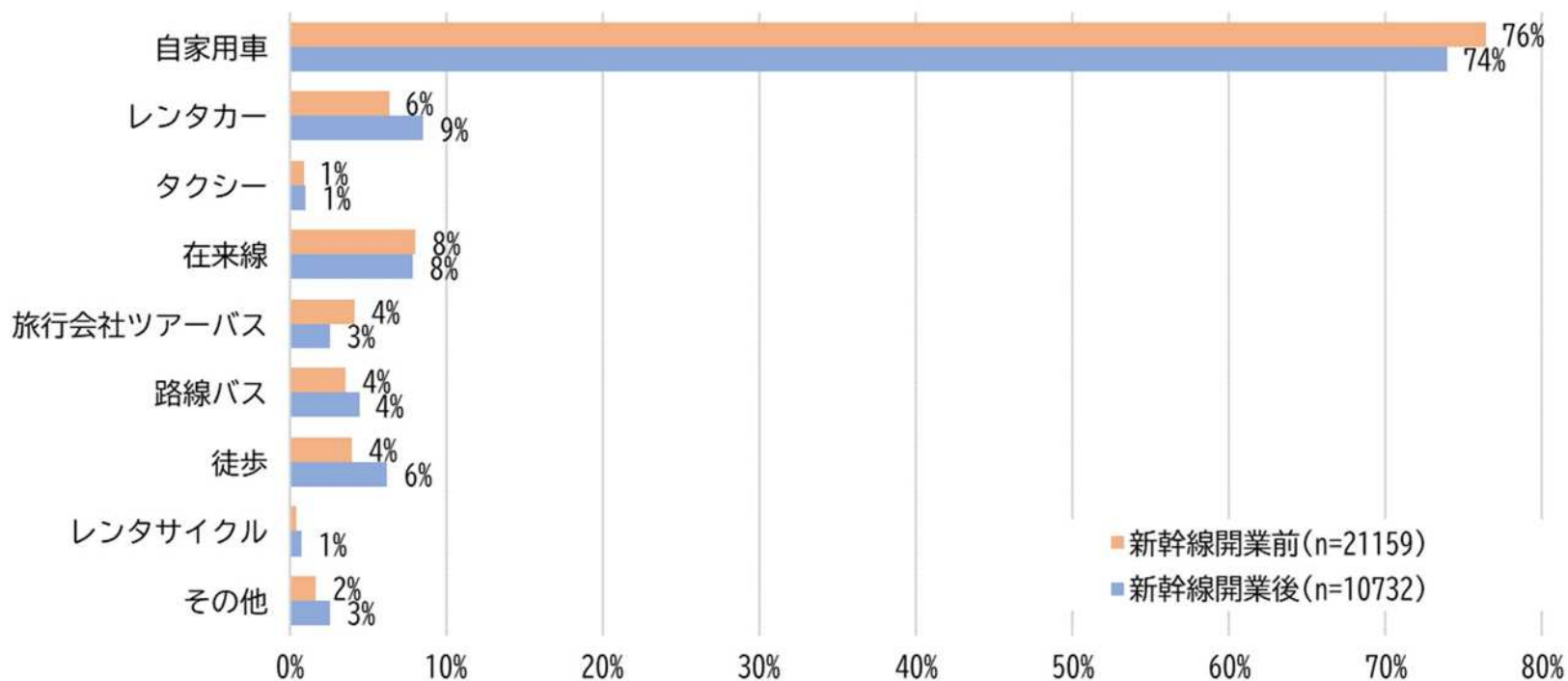
Ⅱ. 本県観光の状況

(8-3) 福井県観光アンケート調査による北陸新幹線開業後の状況

③ 福井県内での交通手段（県全域）

◇新幹線開業前後の福井県内での交通手段では、「自家用車」が約7割と最も多くなっている。

【福井県来訪者の福井県内での交通手段(北陸新幹線開業前後での比較)】



出典：R5年度・令和6年度福井県観光アンケート調査結果
(福井県観光データ分析システム「FTAS」より)

※新幹線開業後：2024.3.16～2024.6.30
新幹線開業前：2023.4.28～2024.3.15

Ⅱ. 本県観光の状況

(8-3) 福井県観光アンケート調査による北陸新幹線開業後の状況

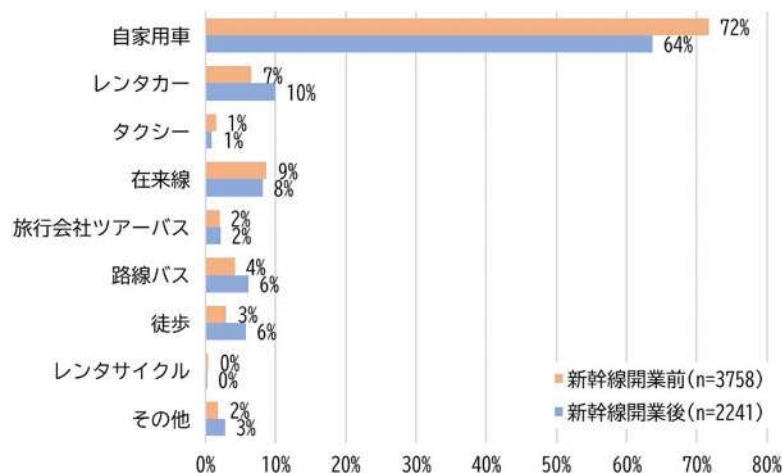
③福井県内での交通手段（6エリア別）

◇自家用車は、あわら市・坂井市、福井市・永平寺町で新幹線開業後に減少している。

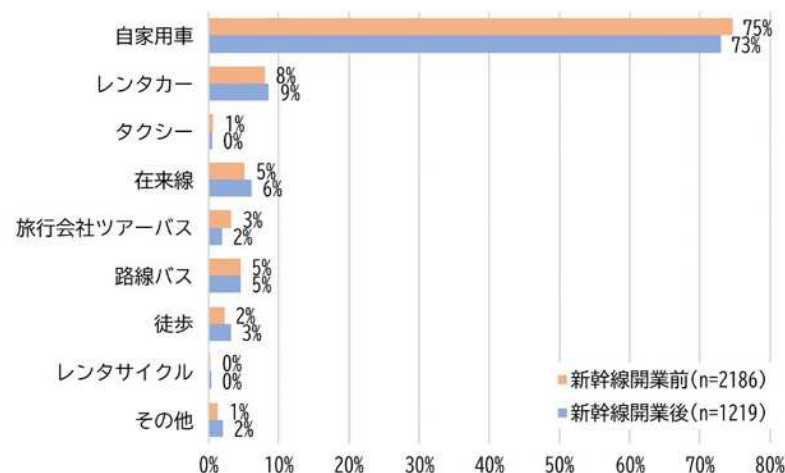
◇公共交通は、在来線が3エリアでほぼ横ばいとなっている。◇レンタカーは、あわら市・坂井市で増加している。

【福井県来訪者の福井県内での交通手段(北陸新幹線開業前後での比較)】

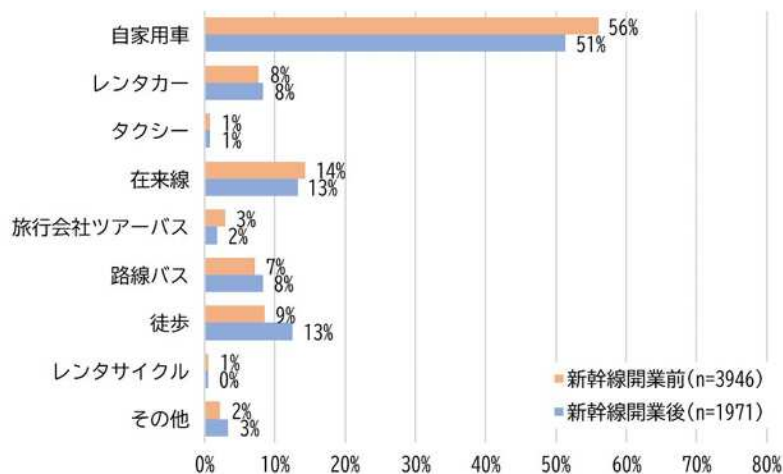
■あわら市・坂井市



■勝山市・大野市



■福井市・永平寺町



出典: R5年度・令和6年度福井県観光アンケート調査結果
(福井県観光データ分析システム「FTAS」より)

※新幹線開業後: 2024.3.16~2024.6.30

新幹線開業前: 2023.4.28~2024.3.15

Ⅱ. 本県観光の状況

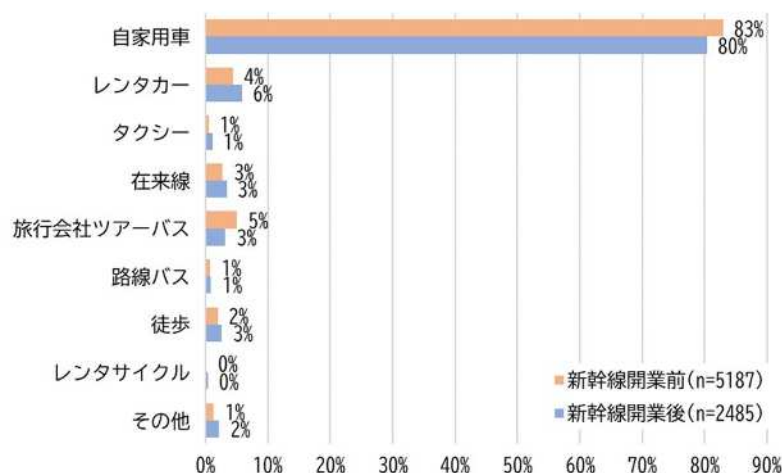
(8-3) 福井県観光アンケート調査による北陸新幹線開業後の状況

③福井県内での交通手段（6エリア別）

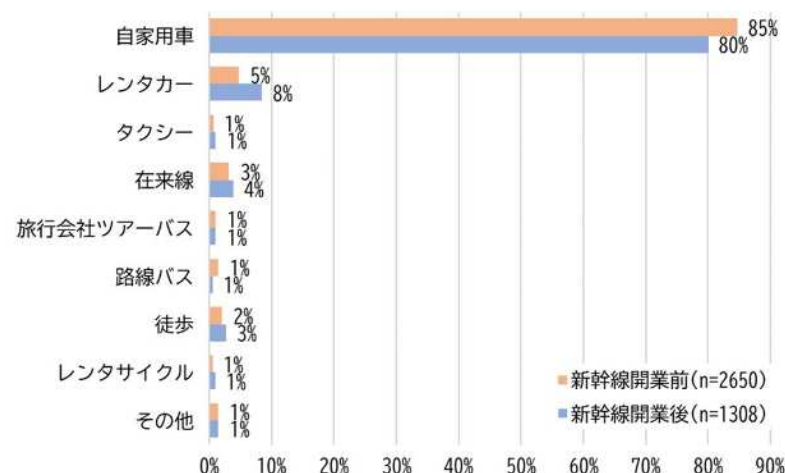
◇自家用車は、丹南、嶺南西部で微減となっているが、嶺南東部ではほぼ横ばいになっている。
◇公共交通は、在来線が嶺南東部で減少となっている。◇レンタカーは、嶺南西部で増加している。

【福井県来訪者の福井県内での交通手段(北陸新幹線開業前後での比較)】

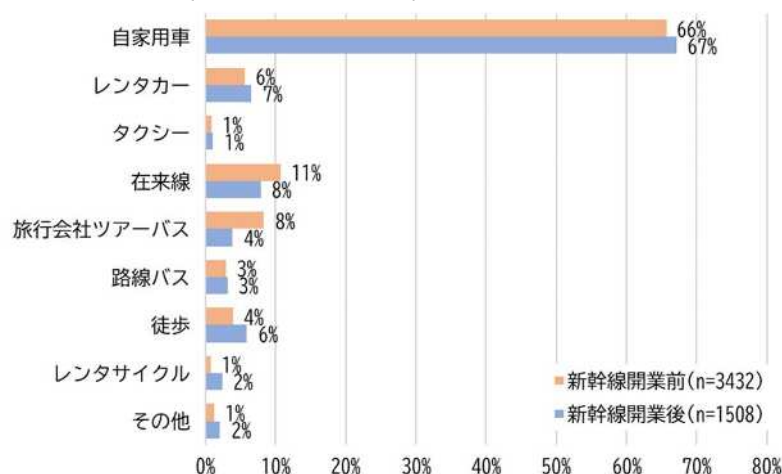
■丹南〔越前市、鯖江市、越前町、南越前町〕



■嶺南西部〔小浜市、高浜町、おおい町〕



■嶺南東部〔敦賀市、美浜町〕



出典：R5年度・令和6年度福井県観光アンケート調査結果
(福井県観光データ分析システム「FTAS」より)

※新幹線開業後：2024.3.16～2024.6.30

新幹線開業前：2023.4.28～2024.3.15

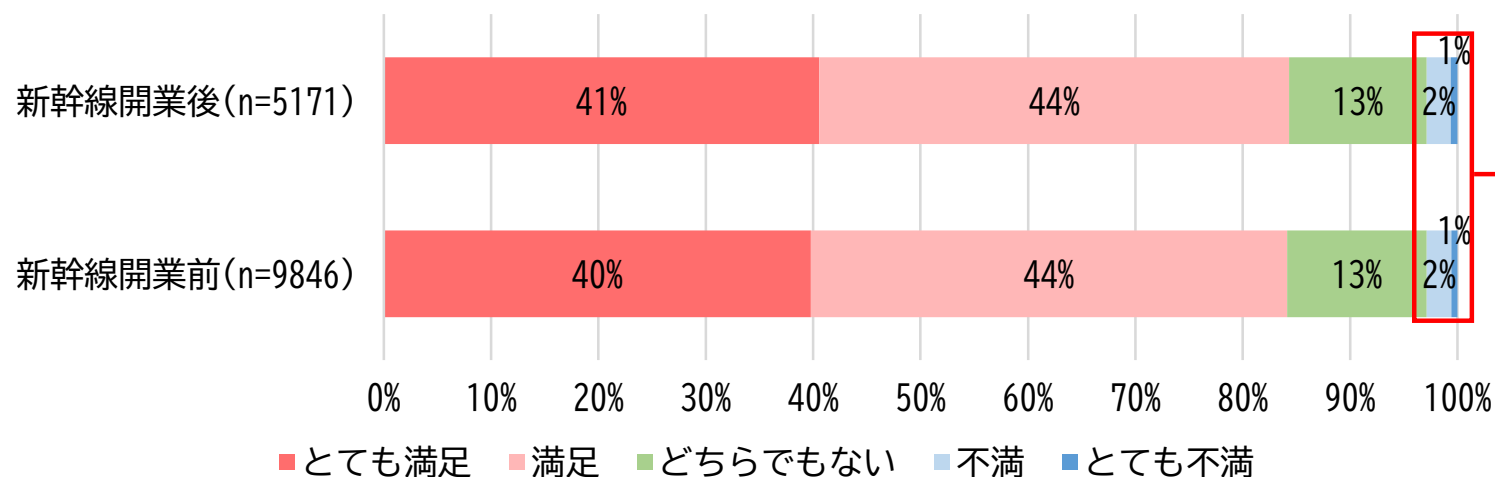
Ⅱ. 本県観光の状況

(8-3) 福井県観光アンケート調査による北陸新幹線開業後の状況

④ 福井県内での交通手段の満足度

◇新幹線開業前後の福井県内での交通手段の満足度では、「とても満足」「満足」の合計が約8割を占め、新幹線開業前後ともに高評価になっている。「不満」「とても不満」の回答者は、在来線や路線バスを多く利用している。

【福井県来訪者の福井県内での交通手段(北陸新幹線開業前後での比較)】



出典：R5年度・令和6年度福井県観光アンケート調査結果
(福井県観光データ分析システム「FTAS」より)

※新幹線開業後：2024.3.16～2024.6.30

新幹線開業前：2023.4.28～2024.3.15

【交通手段の満足度が低い回答者が県内で利用した交通手段】

